2023-2024水工学委員会委員（2023/6/1現在）

資料2301－1－1

顧問

中川　一	京大防災研
寶　馨	京大防災研
道奥 康治	法政大学
中北　英一	京大防災研
清水 康行	北海道大学
清水 義彦	群馬大

委員

NO.	氏名	所属	役職，担当	種類	幹事
1	泉 典洋	北大	委員長，水理公式集例題集編集小委員会委員長	専門1	
2	佐山 敬洋	京大防災研	幹事長	専門2	
3	小田　僚子	千葉工業大	編集幹事長	専門3	
4	矢野 真一郎	九州大	前幹事長，水シンポ2023佐賀企画部会長	専門4	○
5	溝口 敦子	名城大	前編集幹事長，河道管理研究小委員会幹事長	専門5	○
6	高橋 正行	日大	基礎水理部会部会長	専門6	○
7	椿　涼太	名古屋大		専門7	○
8	風間 聡	東北大	水理・水文統計解析研究小委員会委員長	専門8	○
9	入江 政安	大阪大	水工学講演会担当，海岸工学委員会交換委員	専門9	
10	竹林 洋史	京大防災研	水害対策小委員会委員長，日本建築学会「水害・土砂災害等による建築物等の被災調査マニュアル検討WG」委員（水工学委員会からの選出委員）	専門10	○
11	大石 哲	神戸大		専門11	
12	手計　太一	中央大	河川観測高度化研究小委員会委員長、水理公式集例題集編集小委員会幹事長	専門12	○
13	森脇　亮	愛媛大		専門13	○
14	中山 恵介	神戸大		専門14	
15	田端　幸輔	国総研		専門15	
16	音田 慎一郎	京都大学		専門16	
17	川村 里見	寒地土木研究所		専門17	
18	山田 朋人	北大		北海道1	
19	岩崎　理樹	北大	水工ML，2023年度夏期研修会	北海道2	○
20	梅田　信	日本大学工学部	水工ML	東北1	○
21	川越 清樹	福島大		東北2	
22	二瓶 泰雄	東京理科大	河川懇談会幹事長/インフラ体力診断小委員会幹事	関東1	
23	鼎 信次郎	東工大		関東2	
24	田中 規夫	埼玉大		関東3	○
25	宮本 仁志	芝浦工大	出版委員会委員	関東4	○
26	芳村 圭	東大		関東5	
27	平林　由希子	芝浦工業大	本部理事	関東6	○
28	石川 博基	国交省・河川計画課河川計画調整室長		関東7	
29	瀬崎 智之	国総研		関東8	
30	柿沼 太貴	土木研究所（ICHARM）		関東9	
31	佐藤　隆宏	電中研		関東10	
32	陰山　健太郎	日本工営		関東11	
33	荒木　千博	建設技術研究所		関東12	
34	渡邊　武志	パシフィックコンサルタンツ		関東13	
35	中村　要介	三井共同建設コンサルタント		関東14	
36	岡村　誠司	いであ		関東15	
37	戸田 祐嗣	名古屋大	土木学会論文集編集小委員会委員長，河道管理研究小委員会委員長	中部1	○
38	谷口　健司	金沢大		中部2	
39	武田　誠	中部大	水工学オンライン運営小委員会委員長	中部3	
40	市川 温	京大	水文部会部会長，流域管理と地域計画連携方策研究小委員会幹事	関西1	○
41	川池　健司	京大防災研	IAHR Japan chapter幹事長	関西2	
42	小林　健一郎	神戸大	グローカル小委員会委員長，水理・水文統計解析研究小委員会幹事長，地球環境委員会交流委員(グローカル)	関西3	○
43	田中　賢治	京大防災研		関西4	○
44	山上 路生	京大		関西5	
45	山口　弘誠	京大防災研		関西6	
46	赤松　良久	山口大	環境水理部会長	中国1	○
47	内田　龍彦	広島大	河川部会部会長，土木学会論文集編集委員会電子化小委員会副委員長	中国2	
48	高橋直己	香川高専		四国1	○
49	杉原 裕司	九州大		西部1	
50	重枝 未玲	九工大	HP担当，水シンポ2023佐賀担当	西部2	○

オブザーバー（定員外）

大槻 順朗	山梨大学	水害対策小委員会幹事長
五十里 洋行	京都大学	海岸工学委員会交流委員
深見　和彦	河川情報センター	ISO/TC113小委員会委員委員長、ISO対応特別委員会委員
呉 修一	富山県立大学	2024年度水工学講演会担当

2023-2024 水工学委員会（2023/06/01現在）

泉　典洋　委員長

- 沿岸環境関連学会連絡協議会
- 沿岸域における気候変動適応策に関する研究会
  渡部哲史 委員
  （グローカル小委より）
- 地球環境委員会
  小林健一郎 委員
  （グローカル小委員長）
- 海岸工学委員会
  入江政安 委員
- 環境システム委員会
  赤松良久 委員
  （環境水理部会長）
- 構造工学委員会
  土木構造物共通示方書編集委員会
  瀬﨑 智之委員
- ISO対応特別委員会
  深見和彦　委員
  （ISO/TC113小委員長）

水工学委員会・土木計画学委員会

流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会
立川康人　座長

国土交通省
水管理・国土保全局
都市局
産業界

河川懇談会
中北英一 座長
二瓶泰雄 幹事長

国土交通省
水管理・国土保全局

水工学講演会
2023（第68回・大阪）入江政安　委員
2024（第69回・富山）呉　修一　委員

水シンポジウム
2023（第27回・佐賀）佐賀大　大串浩一郎先生
2024（第28回・長野）信州大　吉谷純一先生

水工学に関する夏期研修会
2023（第58回・札幌）岩崎理樹 委員
2024（第59回・関西）基礎水理部会担当

幹事会
佐山敬洋 幹事長

ホームページ担当
重枝未玲 委員

ML担当
岩崎理樹 委員
梅田信 委員

部　会

- 水文部会
  市川 温 部会長
- 基礎水理部会
  高橋正行 部会長
- 環境水理部会
  赤松良久 部会長
- 河川部会
  内田龍彦 部会長

点線枠は停止中

研究小委員会

- 河川観測技術高度化研究小委員会
  手計太一 委員長
  小山直紀 幹事
- グローカル気候変動適応研究推進小委員会
  小林健一郎 委員長
  渡部哲史 幹事長
- 河道管理研究小委員会
  戸田祐嗣 委員長
  溝口 敦子 幹事長
- 水理・水文統計解析研究小委員会
  風間聡 委員長
  小林健一郎 幹事長

常置小委員会

- 水工学論文集編集小委員会
  小田僚子 幹事長
- 水害対策小委員会
  竹林洋史 委員長
  大槻順朗 幹事長
- 水理公式集編集小委員会
  泉 典洋 委員長
  ~~（水工学委員会委員長）~~
- 水理公式集例題集編集小委員会
  泉 典洋 委員長
  手計太一 幹事
- ISO/TC113小委員会
  深見和彦 委員長
- 水工学オンライン小委員会
  武田 誠 委員長
  重枝未玲副委員長
  柏田 仁幹事

- 企画研究委員会
- 出版委員会
  宮本仁志 委員
- 土木学会論文集編集委員会
  編集調整会議
  泉　典洋 委員長
  （水工委員会委員長）
  電子化小委員会
  内田龍彦 副委員長
- 水圏工学編集小委員会
  戸田 祐嗣　委員長
  山中亮一 幹事長
  内海信幸 幹事
  厳島怜 委員
  遠藤徹 委員
  梶川勇樹 委員
  相馬一義 委員
  原田守啓 委員
  吉田圭介 委員
- 減災・防災委員会
  竹林洋史委員（水害対策小委員長）
  緊急対応マネジメント小委員会
  大槻順朗幹事（水害対策小幹事長）
- インフラメンテナンス総合委員会
  健康診断小委員会
  戸田祐嗣 幹事
  知の体系化小委員会
  戸田祐嗣 委員

2023 年度スケジュール（R5.6/1 現在.）

資料 2201-2

	水工学委員会，編集小委員会	部会，小委員会	その他（共催）
2023 年 4 月			
5 月	5/24 第一回編集小委員会(O) 5/31 水工学論文集締切		
6 月	6/1 第一回水工学委員会(O) 6/6 第一回編集小委員会幹事会(O) 6/7～9 第二回編集小委員会(M)	6/22-23 河川部会・河川シンポジウム(H)	
7 月	7/14 第三回編集小委員会(M)		
8 月	8/3-4 水シンポジウム in さが （執行部＋環境水理部会） 8/31-9/1 水工学に関する夏季研修会＠北大		
9 月	9/20 第四回編集小委員会(M)	9/11-15 土木学会全国大会（広島）	
10 月		10/?? 環境水理部会研究集会	
11 月			
12 月	12/11-13　第 68 回水工学講演会＠大阪 12/12　第二回水工学委員会 12/??　アゲールシンポ（グローカル小委員会）		
2024 年 1 月	1 月末頃 : 河川災害シンポ（水害対策小委員会）		
2 月			
3 月	3/??　第三回水工学委員会(O)	3/?? 基礎水理シンポジウム	
4 月			
5 月	5/31 水工学論文集締切		

注：(M)はメール審議，(O)はオンライン開催, (H)はハイブリッド開催.

<u>2024 年度スケジュール</u>

6 月　河川シンポ（土木学会講堂・オンライン併用）

7 月ごろ　水シンポ in ながの

8～9 月ごろ　夏期研修会（海工担当：関西）

12 月ごろ　第 69 回水工学講演会（富山）

第 58 回

水工学に関する夏期研修会（案）

本研修会は土木学会の CPD（継続教育）プログラムに申請中です．

主催：公益社団法人　土木学会

期日：対面：2023 年 8 月 31 日（木）～9 月 1 日（金）（A，B コース並行開催）

場所：対面：北海道大学　工学部

A コース（河川・水文）【行事コード xxxxx】　　B コース（海岸・港湾）【行事コード xxxxx】

テーマ：水工学に関する国際的話題，今後我が国で取り組むべき課題

■　8 月 31 日（木）

9:00～10:30	清水康行（北海道大学）：河川に関する国際プロジェクト iRIC を例とした国際的取り組み		
10:45～12:15	泉典洋（北海道大学）：土砂水理学，河川地形学研究の世界最前線	10:45～12:15	森信人（京都大学）：気候変動を考慮した沿岸ハザード評価における国際的取り組みのこれまでとこれから
13:15～14:45	佐藤愼司（高知工科大学）：海岸工学における学融合とグローバル化		
15:00～16:30	田中規夫（埼玉大学）：植生水理学にかかわる研究動向	15:00～16:30	内山雄介（神戸大学）：国際的な情報発信の重要性：Coastal Engineering Journal を例に

タイトルは仮．時間割はこれから調整

■　9 月 1 日（金）

9:00～10:30	山田朋人（北海道大学）：諸外国の豪雨災害事例と気候変動を含めた風水害リスク	9:00～10:30	有働恵子（東北大学）：気候変動を考慮した海岸地形研究における国際動向と今後の課題
10:45～12:15	片岡智哉（愛媛大学）：河川流域圏におけるプラスチック動態に関する研究	10:45～12:15	田島芳満（東京大学）：国際的な海岸災害研究のこれまでとこれから
13:15～14:45	椿涼太（名古屋大学）：河川の観測に関する研究動向と我が国が取り組むべき課題	13:15～14:45	伊藤一教（大成建設）：ボスポラス海峡鉄道横断トンネルを対象にした国際プロジェクトと技術開発
15:00～16:30	手計太一（中央大学）：東南アジアにおける水工学研究の将来	15:00～16:30	渡部靖憲（北海道大学）：若手海岸研究者のための英文雑誌投稿への準備，執筆，査読対応の基礎講座

定　　員：対面講義（A コース 120 名，B コース 120 名）

受 講 料：一般 16,000 円，学生・院生 10,000 円

※参加登録をされた方は，申し込み区分に依らず，全員が A，B 両コースの共通講義に参加できます．

申込方法：土木学会ホームページ：申込みサイトの準備が整い次第，URL を掲載します．

問 合 先：土木学会研究事業課　TEL：03-3355-3559（担当：那須珠実）

備　　考：講義の変更等の最新情報に関しては下記のホームページをご覧ください

夏期研修会ホームページ：https://committees.jsce.or.jp/hydraulic/node/213

「第 27 回水シンポジウム 2023 in さが」
プログラム（案）

■ 令和５年８月３日（木）第１日目　シンポジウム

会場：佐賀市文化会館中ホール
（４００人程度を想定）

【午前の部：メイン会場】

（９：００　準　備）
９：３０　開　場
１０：００　開　会（３０分）
シンポ趣旨説明（２分）　司会（委託）
開会挨拶（８分）　実行委員会委員長
実行委員紹介（２分）　司会より紹介、壇上一礼
来賓挨拶（各５分）　佐賀県知事、佐賀市長、九州地方整備局長
（参考 in やまがた：山形県知事、山形市長、東北地方整備局長）
プログラム案内（３分）　司会
１０：３０　特別講演（６０分）　（京都大学 防災研究所 所長　中北 英一）

１１：３０　昼休憩・展示パネル見学（９０分）

【午後の部：分科会等】

１３：００　第１分科会「環境」
コーディネーター：山口大学　赤松教授（８０分）
１４：２０　休憩（１０分）
１４：３０　第２分科会「治水」
コーディネーター：佐賀水ネット　荒牧代表（８０分）
１５：５０　休憩（１０分）
１６：００　市民団体等による発表（２団体想定）（４０分）
（全体会議事前打合せ）
１６：４０　全体会議（３０分）
各分科会まとめとメッセージ発信
１７：１０　次回開催県挨拶（１０分）※開催時に次期開催県が決まっていない可能性有
１７：２０　閉　会

実行委員が市民団体発表を観覧できるよう全体会議事前打合せの時間を調整する。（企画部会で議論）

【パネル展示】（会場：中ホールホワイエ）

資料-2

メインテーマ

SAGA水ものがたり

サブタイトル

有明海と流域の営みにより作られた佐賀平野、成富兵庫から今に引き継ぐ流域治水

佐賀県には嘉瀬川、六角川、松浦川、筑後川の4つの一級水系があり、そのうち松浦川を除く3河川が有明海に流れ込み、自然干陸化と干拓により広大で肥沃な佐賀平野が形成されました。有明海の干満差が我が国最大であるため、佐賀平野の大部分は低平地であり流入河川の感潮区間は非常に長くなっています。

このような地形特性に加えて山地が浅いことから、降れば洪水、降らねば干ばつということが何度も繰り返された地域でした。このため古くから有明海の潮汐を利用したアオ取水が河川下流域で盛んに行われ、また、縦横に発達したクリークによる用水と排水の高度な利活用やため池が広く利用されてきました。江戸時代初期には成富兵庫茂安を初めとした技術集団によって、地域特性を十分に踏まえ治水と利水の両方に配慮した総合的な水利事業が藩内各地で行われた歴史があります。しかしながら、自然災害の猛威は増し、戦後最大の水害となった昭和28年の西日本水害や昭和55年洪水、平成２年水害など集中豪雨による外水氾濫と内水氾濫が頻発しました。そのため、激甚災害の指定を受けるなどして治水対策を進めてきたところですが、令和元年、3年と立て続けに浸水被害が発生しています。これらを踏まえ、国、県、市町、各関係機関が一体となり、「流域治水プロジェクト」を展開して、治水対策に鋭意取り組んでいるところです。

一方で、有明海の浅海・干潟域や感潮河川域では、特有の生態系が発達し、希少種のエツや、ムツゴロウ、ワラスボ、シオマネキなどユーモラスな生き物の宝庫でもあります。河川の水環境は、農林水産業やその他の産業、流域文化とも密接に関わっており、これらを持続可能なものにするためにも河川環境の保全にも積極的に取り組んでいく必要があります。佐賀県では、山から海までつながりお互いに関連していることを重視した森川海人っ（もりかわかいとっ）プロジェクトを進めて~~おり、さらに住みたい県日本一も目指して~~います。

本シンポジウムではこれらの特性を踏まえ、「有明海沿岸における里森・川・海のつながり（仮）」、「低平地を有する六角川流域の流域治水を考える（仮）」について議論し、治水・利水・環境・文化などの視点でこれからの人々の暮らしと水との持続可能な関わり方を提案し、全国に発信します。

第一分科会テーマ

「有明海沿岸における里森・川・海のつながり」

有明海沿岸では大きな干満により作られる広大な干潟とそこで育まれる独特の豊かな生態系が形成されています。また、佐賀平野では、自然干陸化と干拓によって広がった広大な平野を潤すためにクリークが縦横に張り巡らされ、河川とクリークが織りなす豊かな生態系が形成されています。

しかし、有明海奥部では養殖のり生産が半減する厳しい不作や、夏季には毎年貧酸素水塊が発生するなど、有明海の環境問題の多くはいまだに解決が見出されていません。一方で、気候変動による洪水規模や頻度の増大に対応して、陸域からの沿岸への流入土砂・栄養塩量が変化するとともに、河川・クリークの環境や水利用も大きく変化する可能性があります。

本分科会では、有明湾奥部における長期的な環境変動や佐賀平野における河川やクリークの生態系に関する調査成果に触れつつ、水でつながる佐賀平野と有明海沿岸の豊かな生態系の恵みを後世に引き継いでいくために関係者が取り組むべき事項を議論します。

コーディネーター

赤松　良久（土木学会水工学委員、山口大学大学院創成科学研究科　教授）

パネリスト

速水　祐一（佐賀大学農学部　准教授）

鬼倉　徳雄（九州大学大学院農学研究院　教授）

川上　義幸（北部河川利用協会　理事長）

第二分科会テーマ

「低平地を有する六角川流域の流域治水を考える」

佐賀平野には、六角川・嘉瀬川・筑後川という3 つの大きな水系があります。その中でも、六角川は特に有明海の感潮区間が長いという特徴があります。

六角川左岸の山すそに沿って小倉と長崎をつなぐ長崎街道が通っていました。この地域には「長崎街道より低い所に家を建てるな」という知恵が伝承されてきたといいます。令和元年8月と令和3年8月、六角川流域は、立て続けに浸水家屋3,000戸を越す浸水被害を受けました。その浸水家屋はほとんどが長崎街道より低い低平地に建てられていました。

2回の災害を受け、地域の首長が参加した協議会が設置され、流域治水を組み入れた「新・六角川水系流域治水プロジェクト」が策定されました。冊子の扉には「これまでの河川対策に加え、住まい方を工夫するなど、まちづくりと河川対策が調和した『流域治水』への転換が求められています」と記されています。六角川流域低平地に蓄えられてきた「在来知」と近代土木工学が育て上げてきた科学技術的手法を組み合わせた六角川独自の流域治水の将来像を描いてみたいと思います。

コーディネーター

荒牧　　軍治（佐賀大学名誉教授　さが水ものがたり館館長）

パネリスト

井上　　一夫（佐賀水ネット・六角川代表）

~~阿部　成三~~　寺尾　直樹（国土交通省　九州地方整備局　武雄河川事務所長）

大串　浩一郎（佐賀大学理工学部理工学科都市工学部門　教授）

コメンテーター

中北　英一（京都大学　防災研究所　所長）

※荒牧代表からの補足

全国の流域治水にお詳しい方より六角川における流域治水の特性や全国的に共通している事柄についてコメントをいただきたい。

演題

我が国の治水計画における2 つのパラダイムシフト

講演者

中北　英一 （京都大学 防災研究所 所長）

■略歴

昭和60年10月　京都大学防災研究所助手
平成 3年 1月　京都大学防災研究所助教授
平成12年 4月　京都大学大学院工学研究科助教授
平成16年10月　京都大学防災研究所教授
平成27年 4月　京都大学防災研究所 副所長
令和 3年 4月　京都大学防災研究所 所長，京都大学研究連携基盤 副基盤長
令和 4年 4月　京都大学 副理事
文部科学省 技術参与（環境エネルギー科学技術研究担当）

■推薦理由

レーダーを使った気象観測の権威。昨今は，国土交通省や気象庁などの気象災害に関する重要委員会では必ず委員をされており、前水工学委員長でもある。

「第 27 回水シンポジウム 2023 in さが」
市民団体等による発表について（案）

■市民団体等による発表（４０分）

候補団体①

団体名：駒鳴集落を守る会

代表者：代表　野﨑 忠秋氏

所　在：伊万里市大川町駒鳴

活動内容：佐賀県伊万里市大川町駒鳴の住民団体が「駒鳴集落を守る会」です。松浦川をショートカットした後の河川部分を国土交通省が安全に楽しめる親水公園「ウォーターフロントこまなき」として整備したのをきっかけに、水辺を楽しむ活動を積極的に行っています。旧河川上に作られた川床での「水辺で乾杯」は魅力的です。

候補団体②

団体名：松隈地域づくり株式会社

代表者：代表取締役　多良 正裕氏

所　在：吉野ヶ里町松隈

活動内容：地域住民が主体となり「松隈地域づくり株式会社」を設立し、松隈小水力発電所の事業者としました。

松隈地区が健全な農村であり続けるために、地区の農業用水路を用いた小水力発電による収益を利用し、地区内の農地・山林・水利施設の維持管理活用を図ることを目的としています。

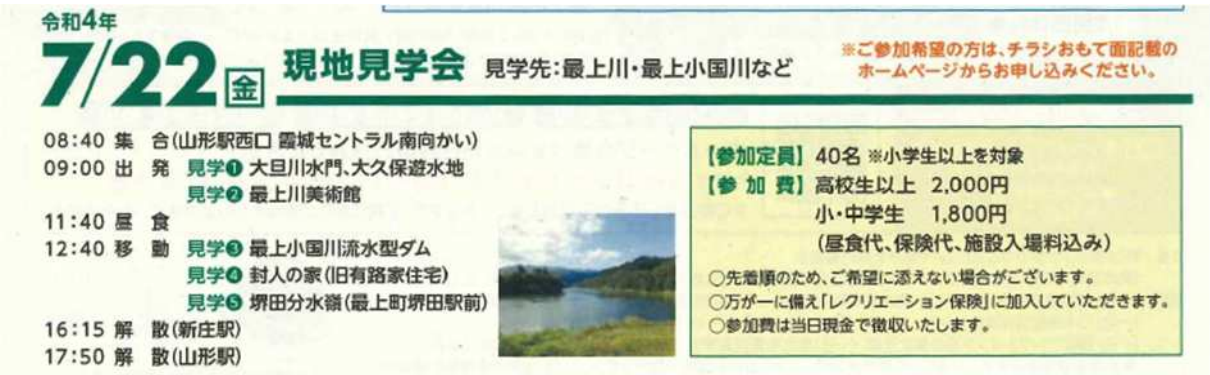
自立できる自治体の小水力発電モデル（通称：佐賀モデル）形成の第一歩となりました。

■令和５年８月４日（金）第２日目　現地見学会
　定員　約４０人を想定

０８：５０　集　合（JR 佐賀駅）
０９：００　出　発　・　移　動（２０分）
０９：２０　見　学　①さが水ものがたり館・石井樋（６０分）
１０：２０　移　動（３０分）
１０：５０　見　学　②嘉瀬川ダム（４０分）
１１：３０　移　動（５分）
１１：３５　昼　食（６０分）菖蒲ご膳？しゃくなげの里？
１２：３５　移　動（５０分）
１３：２５　見　学　③牟田辺遊水地（３０分）
１３：５５　移　動（４５分）
１４：４０　見　学　④佐賀城本丸歴史館（６０分）
１５：４０　移　動（２５分）
１６：０５　見　学　⑤東よか干潟ビジターセンター「ひがさす」（５０分）
１６：５５　移　動（２０分）
１７：１５　解　散（九州佐賀国際空港）
１７：２５　移　動（３０分）
１７：５５　解　散（JR 佐賀駅）

（参考）
・九州佐賀国際空港　羽田空港行き（令和５年３月の時刻表）
　出発時間：15：35～　第４便
　　18：55～　第５便（最終）
・干潮時間（住ノ江）　17：16

（in やまがたパンフレット抜粋）



現場見学会位置図（案）

地理院地図
GSI Maps

現地見学箇所（案）説明資料

①さが水ものがたり館

石井樋公園内に建つ「さが水ものがたり館」には成富兵庫茂安の生涯と治績、佐賀平野の特性と治水と利水、石井樋公園全体のジオラマ、佐賀平野の治水と利水・成富兵庫茂安の生涯・石井樋の働きを紹介したビデオ映像等が展示されており、月曜日の休館日以外はいつでも見学することができます。

郷土学習が始まる小学校 4 年生用の副読本に「郷土の偉人」として成富兵庫茂安が掲載されたことから、県内各地の小学 4 年生が訪問学習に来てくれます。「私たちはいろんな所で水を使っていますが、水は時々『暴れる水』になるのでそれに備えなければいけないし（治水）、生活と農業のための『命の水』は毎日送り続けなければいけません（利水）。今から 400 年前、成富兵庫茂安は佐賀平野の多くの場所でそのための施設を作りました。その最高傑作がここ石井樋です」と紹介し、復元された「石井樋」施設群を現地で説明すると、子供達は目を輝かせて聞いてくれます。

②嘉瀬川ダム

「嘉瀬川ダム」は、有明海から３０ｋｍ上流、「緑と清流と温泉の町・富士町」に建設されたダムです。

嘉瀬川の下流に広がる佐賀平野は、地形的に低平地であり、日本一干満差の大きい有明海の影響を受けることにより、集中豪雨や台風などの大雨により何度も洪水被害が発生しています。また、佐賀平野では主産業の農業、県都佐賀市都市圏の水道など安定的な水源を確保する必要があります。

このような中、嘉瀬川水系の治水対策の一環として、下流部沿川地域における洪水被害の低減を図るとともに、流水の正常な機能の維持、かんがい用水、水道用水、工業用水の補給及び発電を行うことを目的として「嘉瀬川ダム」が建設されました。

ダム湖は、湖面を利用したボート競技等の開催や、湿性地を利用した野外学習など、多様なイベントが年間を通して行われており、令和６年に佐賀県で開催される「国民スポーツ大会」では、ボート・カヌー競技会場としての利用が予定されています。

嘉瀬川ダム（下流より望む）

Ｒ４高校総体カヌー競技大会（R4.5.28～29）

オープニングイベント

リギング広場整備状況

実業団によるエキシビションレース（R4.7.23）

③牟田辺遊水地

「牟田辺遊水地」がある牟田辺地区は、遊水地整備前は牛津川、石原川、今出川及び牟田辺川が合流する地点に位置し、堤内地の地盤が低く、さらに牛津川と石原川の合流点付近は、無堤区間であったため、洪水時には、牛津川及び石原川の洪水が逆流して堤内地に流入する状況でした。

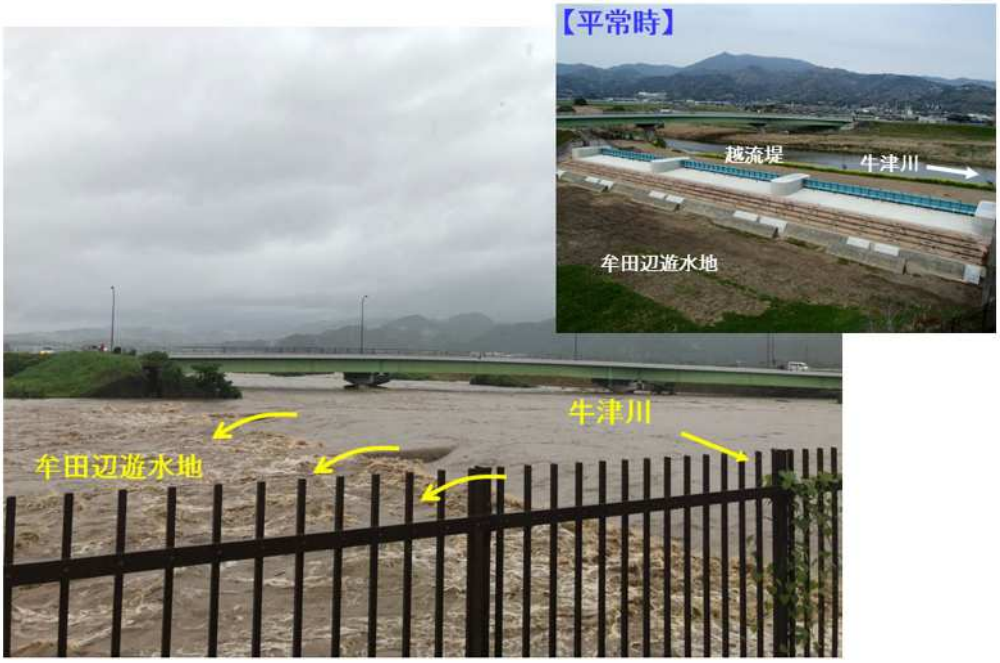
このような状況のなか、大規模な浸水被害をもたらした平成２年７月洪水を契機に、河川激甚災害対策特別緊急事業を採択し、河道整備を行うと共に牛津川沿川の洪水被害の軽減のため、多久市南多久町に「牟田辺遊水地」を計画し、平成 14 年６月に完成しました。

「牟田辺遊水地」は、地役権方式で建設されているため、普段は農地として利用していただきますが、洪水時には牛津川の水を一時的に遊水地内に取り入れ・貯め込むことによって、牛津川を流れる水の量を減らすことで牛津川の水位を低下させています。

完成以降、令和５年１月時点で５回の洪水調節を実施し、牛津川沿川の洪水被害の軽減を図っています。

■計画諸元

■令和元年8月洪水時の状況（令和元年8月27日撮影）



④佐賀城本丸歴史館

「佐賀城本丸歴史館」は、1838 年に佐賀藩 10 代藩主鍋島直正が再建した佐賀城本丸御殿の一部を復元した歴史博物館です。本丸御殿の復元としては日本初で 2,500 平方メートルの規模を誇ります。また、館内では、時代を先導した「幕末維新期の佐賀」をテーマに佐賀城本丸の復元過程や藩政改革・近代科学技術の導入、世界で活躍した先哲の偉業について分かりやすく紹介されています。

このほか、館外は天守台、お濠、国重要文化財の鯱の門などの史跡もあり、当時の雰囲気を味わうことができる魅力的な空間です。

④お濠（事前排水）

佐賀市の平野部は 5m以下の低い標高で、干満差が 6mに達する有明海と背振山地に囲まれており、降った雨をスムーズに排水できない地域特性のため、浸水被害が頻発しています。

このため佐賀城お濠では、お濠周辺地域の浸水被害を軽減させる目的で、平成 28 年にお濠と一級河川多布施川の合流点に水位調整用のゲート（起伏堰）を設け、河川からの流出入を制御し、大雨時の雨水調整池として約 37,000 ㎥の貯留容量を創出し活用しています。

さらに、事前排水でお濠の水位を大雨が降る前に低下させ、約 19,000 ㎥の貯留容量を増加させています。

このように佐賀市では、既存施設を有効活用して浸水被害の軽減に取り組んでいます。

⑤東よか干潟ビジターセンター「ひがさす」

「ひがさす」は、平成 27 年に国際的に重要な湿地としてラムサール条約湿地に登録された「東よか干潟」の価値や魅力を発信し、観光・学習・交流などさまざまな活動の拠点となる施設です。

また、「ひがさす」では、地球環境に優しい地中熱エネルギーを使用されており、展示室や交流スペース等の空調に利用して、建物内の快適な温度を効率的に保っています。

東よか干潟は、佐賀市南部の有明海湾奥広がる泥の干潟です。有明海の干満差は最大約 6mと日本最大で、干潮時は見渡す限りの広大な干潟が姿を現します・

渡り鳥であるシギ・チドリ類の渡来数は日本一を誇り、絶滅危惧種を含む水鳥類の国内有数の中継地・越冬地となっています。また、干潟には、ムツゴロウ、ワラスボ、シオマネキなども泥干潟特融のユニークな生き物が多く生息しています。

（出展元：東よか干潟ビジターセンター「ひがさす」ホームページ）

パネル展示について（案）

１．場所

中ホールホワイエ（２階）　20～30 枚程度

２．内容

⑴　県内市町や協賛団体等の活動の紹介

⑵　県内外の主要災害と防災の事例等の紹介

⑶　水辺の活用等に関する活動の紹介

３．出展者

以下の団体から募集する。

⑴　学会・国・県・市

・土木学会水工学委員会（４部会）
・国土交通省（河川部、各河川事務所）
・佐賀県（県土整備部）
・佐賀市（建設部）

⑵　助成・協賛団体

（助成団体）

・（公財）河川財団
・（一財）防災研究協会
・（一社）九州地域づくり協会
・（一社）九州地域計画協会
・（一社）北部九州河川利用協会

（協賛団体）

・（一社）佐賀県建設業協会
・（一社）佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会
・（一社）佐賀県地質調査業協会
・NPO 法人技術フォーラム
・（公財）佐賀県建設技術支援機構
・独立行政法人水資源機構筑後川局　など

⑶　分科会（パネリスト）、発表等に関わる団体等

・佐賀水ネット
・駒鳴集落を守る会
・松隈地域づくり株式会社
・佐賀大学
・九州大学
・京都大学

基礎水理部会活動報告

2023年度第1回土木学会水工学委員会　2023年6月1日（木）　オンライン会議

基礎水理部会WebサイトURL

http://www.jsce.or.jp/committee/hydraulic/kisosuiri/

[部会長]
高橋 正行（日本大学）
[副部会長]
溝口 敦子（名城大学）
[幹事]
井上 卓也（広島大学）

R4年度（2022年度）の主な活動

- 基礎水理部会委員会の開催
  （第1回R4年9月15日、第2回R4年11月24日、第3回R5年3月20日）
- 第20回水工学オンライン連続講演会開催
  （R5年4月28日、基礎水理部会担当）
- R4年度基礎水理シンポジウム開催（R5年3月20日）
- WG活動報告

第20回水工学オンライン連続講演会（基礎水理部会担当）

2023年4月28日17：00－19：00

講師

冨永 晃宏 先生 （名古屋工業大学･名誉教授）

題目

「実験室から現場の水理現象へ」

内容

河川における水理現象から研究のヒントを得て，実験室での実験にこだわり，数々の実験を行ってきました．また，実験の面白さから興味の赴くままに，少し現実離れした実験も数多く行ってきました．実験室では，現地スケールとは程遠い，歪んだマイクロモデルで水理現象を見ることになります．しかし，実験室で起こった現象は，そのスケールでは真実であり，相似則を十分満たしていなくても，現地スケールの現象を理解するのに役立ちます．ここでは，このような実験の数々について紹介し，実験の面白さを伝えたいと思います．

基礎水理シンポジウム2022

水理実験と河川管理の現

ー基礎研究知見の活かし方を考えるー

主催：公益社団法人土木学会
　　水工学委員会基礎水理部会

日時：2023 年 3 月 20 日(月曜日)
　　10:30-17:25

会場：ハイブリッド(土木学会講堂＋オンライン)開催

CPD単位数：4.9単位(JSCE22-1602)

参加申込：対面32名、Zoom：433名

基礎水理シンポジウム2022プログラム

10:30–10:40（開会挨拶） 田中規夫（埼玉大学教授，部会長）

10:40–11:20 講演1 竹村吉晴（中央大学 准教授）
題目 球磨川令和2年7月豪雨災害の解析から学んだ基礎研究の重要性
11:25–12:05 講演2 太田一行（電力中央研究所 主任研究員）
題目 移動床模型実験と三次元土砂輸送解析 －実用面から見た課題－
（休憩）
13:30–14:15 講演3 山上路生（京都大学 准教授）
題目 「実験水理学」が解き明かす水域の乱流と土砂・物質輸送のメカニズム
14:20–15:05 講演4 井上卓也（広島大学 准教授）
題目 河床変動計算のモデル化に関する最近の研究動向
15:10–16:10 基調講演 福島雅紀（国土技術政策総合研究所河川研究部 河川研究室長）
題目 護岸・水制などの河川構造物の設計をする上で河床変動計算に期待すること
（休憩）
16:45–17:15 全体討論 基礎水理研究知見の活かし方について
司会：田中規夫（埼玉大学教授，部会長） パネリスト：講演者

17:15–17:25（閉会挨拶）高橋正行（日本大学教授，副部会長）

基礎水理部会ワーキング・グループ活動報告

流木力学に関するWG（代表：木村 一郎）

流砂・河床変動に関する若手WG（代表：音田 慎一郎）

生態水理に関するWG（代表：原田 守啓）

数値解析支援ツールに関するWG（代表：旭 一岳）

2022年度　第１回数値解析支援ツールWG

日程：**2022年8月8日（月）、9日（火）**
場所：広島大学(東図書館３Fの畳コモンズ)＋オンライン
内容：
１日目14:00-17:00
開会・趣旨説明：旭一岳　㈱RiverLINK
話題提供：　大石　哲　神戸大学
話題提供：　内田龍彦　広島大学
話題提供：　吉武央気　パシフィックコンサルタンツ㈱

２日目9:00−12:00
話題提供：　中森紳介　㈱RiverLINK
話題提供者：　重枝未玲　九州工業大学
話題提供：　鳩野 美佐子　広島大学
話題提供：　井上卓也　広島大学

今後の取組みについて意見交換
今後課題取りまとめ

第8 回流砂・河床変動に関する勉強会

【場所】一般財団法人 北海道河川財団会議室（〒060-0807 札幌市北区北7 条西4 丁目5-1 伊藤110 ビル 9F）

【日時】9 月20 日（火），21 日（水）

【参加人数】17 名

9 月20 日（1 日目）

13:30～13:35 開会のご挨拶

13:35～14:35 大石哲也（寒地土研）

「流れと地形と植生との関係性」

14:35～15:00 休憩

15:00～16:00 ○平松裕基（寒地土研），岩崎理樹（北海道大），川村里実（寒地土研）

「置き土材料の流下・堆積過程」

16:00～17:00 音田慎一郎（京都大）

「3 次元流れ解析モデルを用いた河床変動のシミュレーション例」18:00～ 懇親会

9 月21 日（2 日目）

8:30～9:30 ○成瀬 元（京都大），大畑耕治（文部科学省），泉典洋（北海道大）

「混濁流と開水路のベッドフォーム形成条件」

9:30～10:30 井上卓也（広島大）

「岩盤河川の侵食プロセスと侵食地形」

10:30～ 現地視察（石狩川）

17:00 札幌駅北口解散

流砂・河床変動に関する若手WG勉強会

日時:2023年3 月14 日(火), 15 日(水)
場所:早稲田大学 西早稲田キャンパス 55 号館1F 会議室
(新宿区大久保3 丁目4-1)

3月14 日(火):
13:30-15:30【基調講演】関根先生:これまでの流砂研究の流れと今後に残されている課題

15:30-16:00 休憩

16:00-17:00 実験室見学

15 日(水):
9:00-10:00 竹林先生:流路・河床変動特性を利用した河川の維持管理

10:10-11:10 萬矢先生:リモートセンシング技術を用いた流砂量算定手法の開発

11:20-12:20 白井先生:転波列のモード解析に関する研究

その他活動報告

- 複断面流れの数値解析に関する国際ベンチマークの進展について、木村一郎先生（富山大）から報告があった。
- 生態水理WGのオンラインミーテイング（ 2022年12月22日）が開催された.

河川部会報告

2023.6.1 水工学委員会資料

部会長	諏訪義雄（国立研究開発法人土木研究所）
副部会長	内田龍彦（広島大学大学院）
副部会長	堀江克也（いであ（株））
委員(幹事長)	田端幸輔（国土政策総合研究所）

部会員：37名　委員（含兼幹事長・幹事）33名（民9・学13・官11）
幹事4名（民2・学1・官1）
現部会長の任期：2023年河川シンポジウムまで

2022年度の主な活動

- 2022年度第一回河川部会(11/2：2021年度シンポジウム総括及び2022年度シンポジウムの企画案等について, 11/5臨時）
- 2022年度第二回河川部会（2/28:要旨査読, スケジュール，OS・OPSの方針）
- 論文賞選定（メール審議3/2-3/9，2件)
- 河川技術シンポジウム(6/22-6/23) 予定

河川部会員名簿
(2023.4.2付)

部会長	諏訪　義雄	官
副部会長	内田　龍彦	学
副部会長	堀江　克也	民
委員	碇　正敬	民
委員	岩見　収二	民
委員	太田　一行	民
委員	尾花　まき子	学
委員	柄沢　祐子	官
委員	川池　健司	学
委員	呉　修一	学
委員	黒澤　祥一	民
委員	新清　晃	民
委員	瀬﨑　智之	官
委員	武内　慶了	官
委員(幹事長)	田端　幸輔	学
委員	知花　武佳	学
委員	椿　涼太	学
委員	鶴田　舞	官
委員	中村　圭吾	官

委員	仲吉　信人	学
委員	西口　亮太	民
委員(幹事)	鳩野　美佐子	学
委員	原田　守啓	学
委員	藤田　士郎	官
委員	本田　隆英	民
委員	舛田　直樹	官
委員	松田　浩一	民
委員	松本　健作	学
委員	溝口　敦子	学
委員	安井 辰弥	官
委員	山田　拓也	官
委員	吉川　泰弘	学
委員	渡邊 茂	官
幹事	猪股　宏典	官
幹事	髙橋　一徳	民
幹事	竹村　吉晴	学
幹事	見上　哲章	民
事務局	那須　珠実	

2023年度河川シンポジウム・河川技術論文集第29巻投稿等について

●シンポジウム概要

・シンポジウム開催日：2022年6月22日（木）・23日（金）

・OS場所：6/22（木）パネラーは土木学会講堂・その他はZoomオンライン（昨年同様）

・ポスター発表・ディスカッション：6/23（金）はZoom（予定）・事前ディスカッションは専用HP

●論文集等スケジュール

・要旨応募（1/6締切）→本論文投稿（3/24締切） → 最終原稿up（5/29～6/1）

・ポスターup（6/5～6/8）・ディスカッション（6/5～6/21）意見交換

●留意事項

・部会外査読を継続⇒ご協力ありがとうございました.

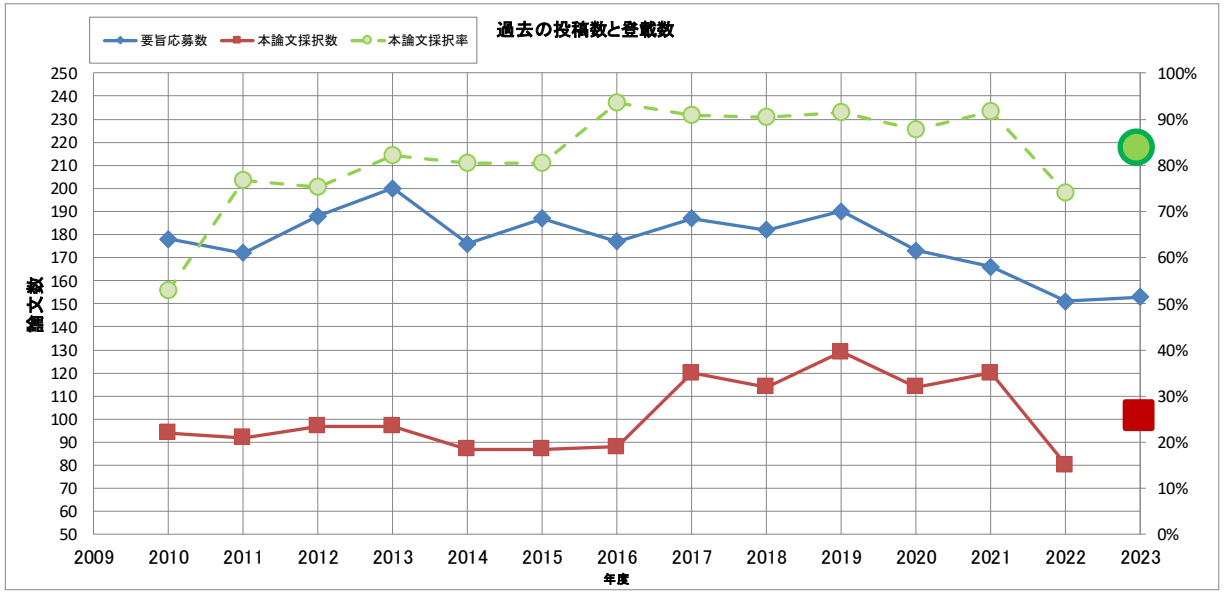
・ゲストエディターを導入しました⇒ご協力ありがとうございました.

・採択判定において投稿要領の「投稿条件」に適合した原稿であること・編集意図との適合性確認を徹底します⇒次頁

・特定テーマ候補をなるべく多く用意し、編集過程で本番OSテーマをしぼり込みます. ポスター発表はなるべくOPSになるようにします. ⇒ 検討中. 本日打ち合わせ

河川技術論文集第29巻投稿状況

	Vol.16	Vol.17	Vol.18	Vol.19	Vol.20	Vol.21	Vol.22	Vol.23	Vol.24	Vol.25	Vol.26	Vol.27	Vol.28	Vol.29
	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
要旨応募数	178	172	188	200	176	187	177	187	182	190	173	166	151	153
要旨採択数	130	132	129	118	108	112	94	142	143	161	139	141	119	127
要旨採択率	73%	77%	69%	59%	61%	60%	53%	76%	79%	85%	80%	85%	79%	83%
本論文投稿数		120	129	118	108	108	94	132	126	141	130	131	108	120
本論文採択数	94	92	97	97	87	87	88	120	114	129	114	120	80	102
本論文採択率	53%	77%	75%	82%	81%	81%	94%	91%	90%	91%	88%	92%	74%	85%
修正後論文投稿数								119						
修正後論文採択数								119						
修正後論文採択率								100%						
全体採択率	53%	53%	52%	49%	49%	47%	50%	64%	63%	68%	66%	72%	53%	67%
総説	0	0	0	4	2	3	2			1	0	1	2	
招待論文	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0	0	
論文+報告	94	92	97	93	85	84	86			128	114	118	78	
開催場所	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	東大弥生講堂	—	オンライン	土木学会講堂・オンライン	土木学会講堂・オンライン



環境水理部会活動報告・活動予定

部会長　赤松良久(山口大学)
副部会長　新谷哲也(東京都立大学)
幹事　吉川 泰弘(北見工業大学)
幹事　東　博紀(国立環境研究所)

2023年度環境水理部会研究集会

日時:2023年8月31日から9月1日
場所:宮城県気仙沼市

WG活動

沿岸海洋環境WG(主査:齋田倫範(鹿児島大学))

・WGメンバーを中心としたミーティングでの意見交換を実施予定，その後，沿岸海洋環境に関する課題の共有・議論のためのワークショップ等を開催

火山麓河川水系WG(主査:田代喬(名古屋大学))

・4/10に，情報・意見交換を趣旨とする第1回オンライン談話会を実施（6名参加）．7/22-24に白山・手取川水系巡検を計画中.

閉鎖性水域WG(主査:新谷哲也(東京都立大学))

・現地見学会・発表会（7/13-16，沖縄久米島）

温暖化適応の環境水理学的視点からの探求WG(主査:赤松良久(山口大学))

・流域マネジメント関連の連続講演会を計画中

水文部会構成

- 部会長
  - 鼎信次郎先生（東京工業大学）→市川（京大）
- 副部会長
  - 市川（京大）→鈴木善晴先生（法政大学）
- 河川部会連携委員（任期2期4年）
  - 仲吉先生（東京理科大学）→萬和明先生（京大）
  - 呉先生（富山県立大学）：留任（4期目）
- 水工学オンライン小委員会委員（任期2年）
  - 瀬戸先生（気象研究所）→山崎大先生（東京大学）
  - 吉川先生（長崎大学）：留任（2年目）

水文部会2023年度活動予定

- 水文研究集会 （未定）
- 水文部会 （水工学講演会期間中）
- 水工学オンライン連続講演会（6月26日（月））
  水理・水文統計解析研究小委員会との共同企画

グローカル適応研究小委員会報告

構成

委員長	小林健一郎（神戸大学）
幹事長	渡部哲史（京都大学）
顧問	中北英一（京都大学）
顧問	矢野真一郎（九州大学）
顧問	中山恵介（九州大学）
幹事	10名
委員	18名
オブザーバー	2名

R5年度の主な活動予定

- 9月15日：土木学会全国大会共通セッション：水工学委員会グローカル・CS13「気候変動への適応と緩和」と地球環境委員・CS15「気候変動・地球環境問題（第Ⅷ分野）」を統合することを決定
- 11月：アゲールシンポジウム？　通年：連関図はどうするか？
- その他，6月以降に企画する予定

連関図作成（令和4年度：昨年度）

- 有志により作成
  - 対面MTGの実施 (6/15, 土木学会）
  - オンラインでの連関図作成（7月～11月）
  - 「水工学の今後10年の研究課題」に掲載

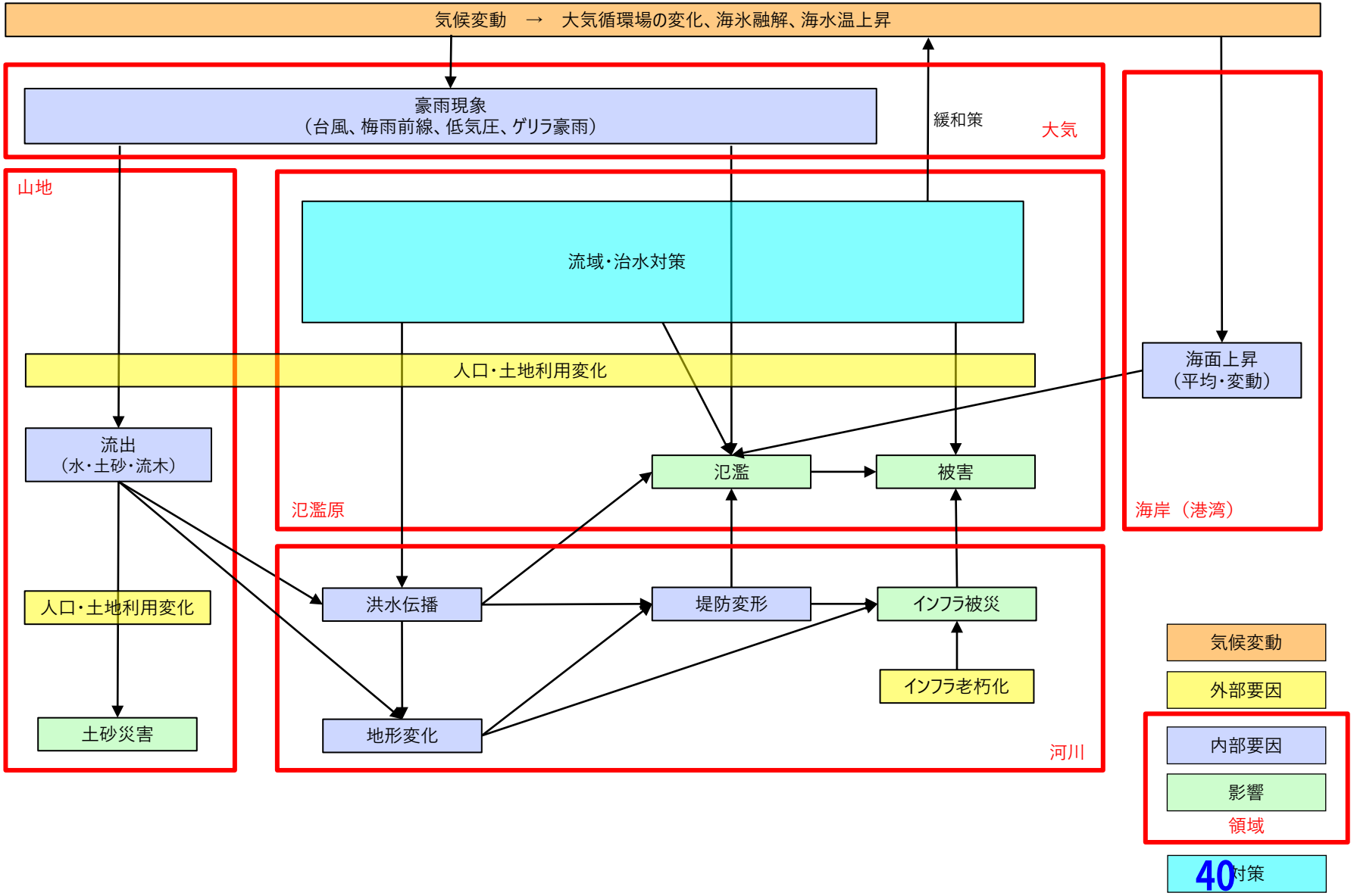
- 3つの分野で作成
  - 洪水/治水、環境、利水/水循環
  - 各分野で全体図と詳細図

若手/中堅分野横断企画（渡部企画）

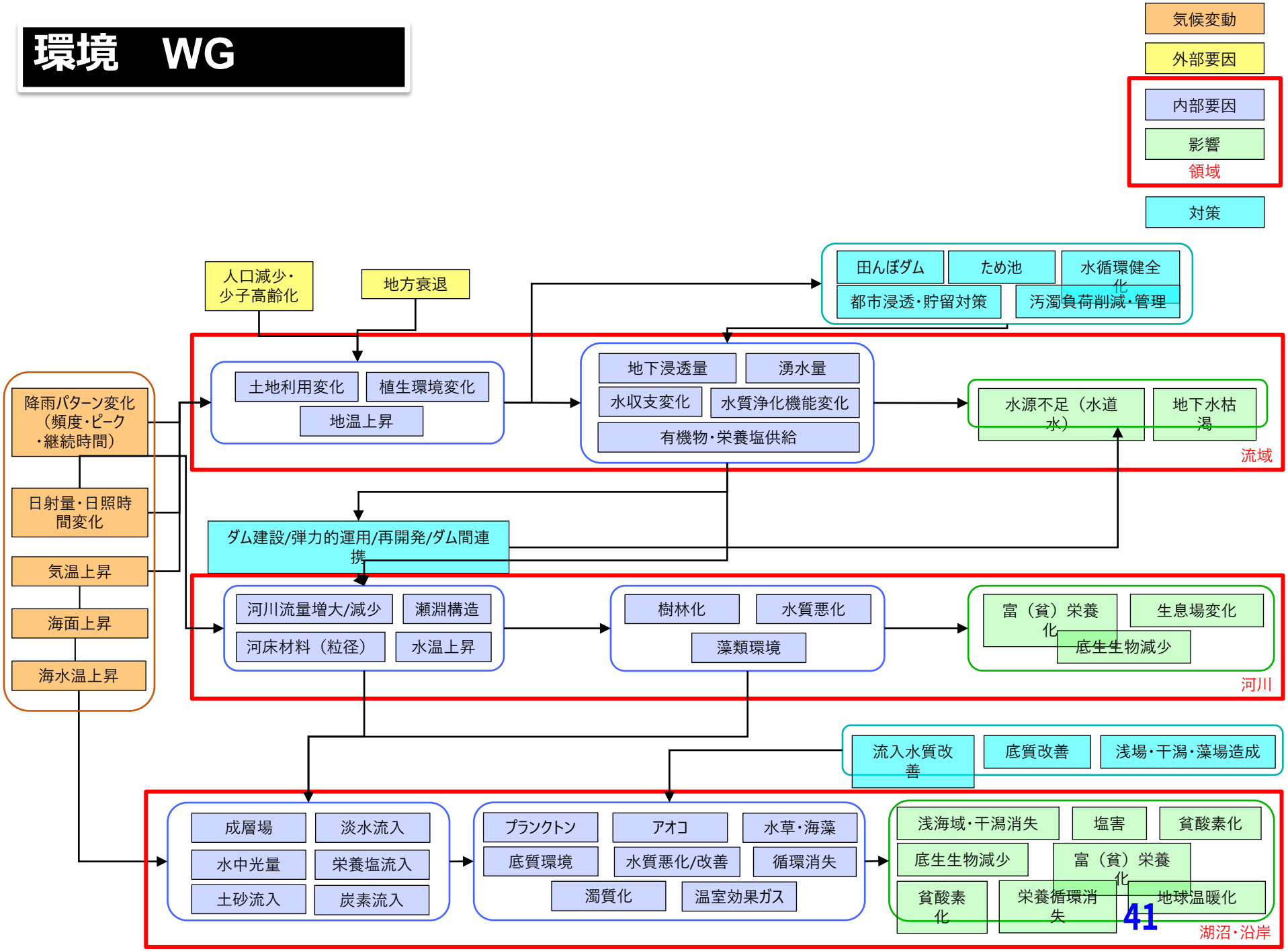
- 各部会の若手/中堅の有志が横のつながりを強めるための企画を実施
  - 11名の参加、各部会から参加
  - 参加希望者を引き続き募集中
- 月1回のWEB勉強会を実施
  - 各自の研究内容について紹介
- 年次講演会にて対面打合せ

補足資料:連関図

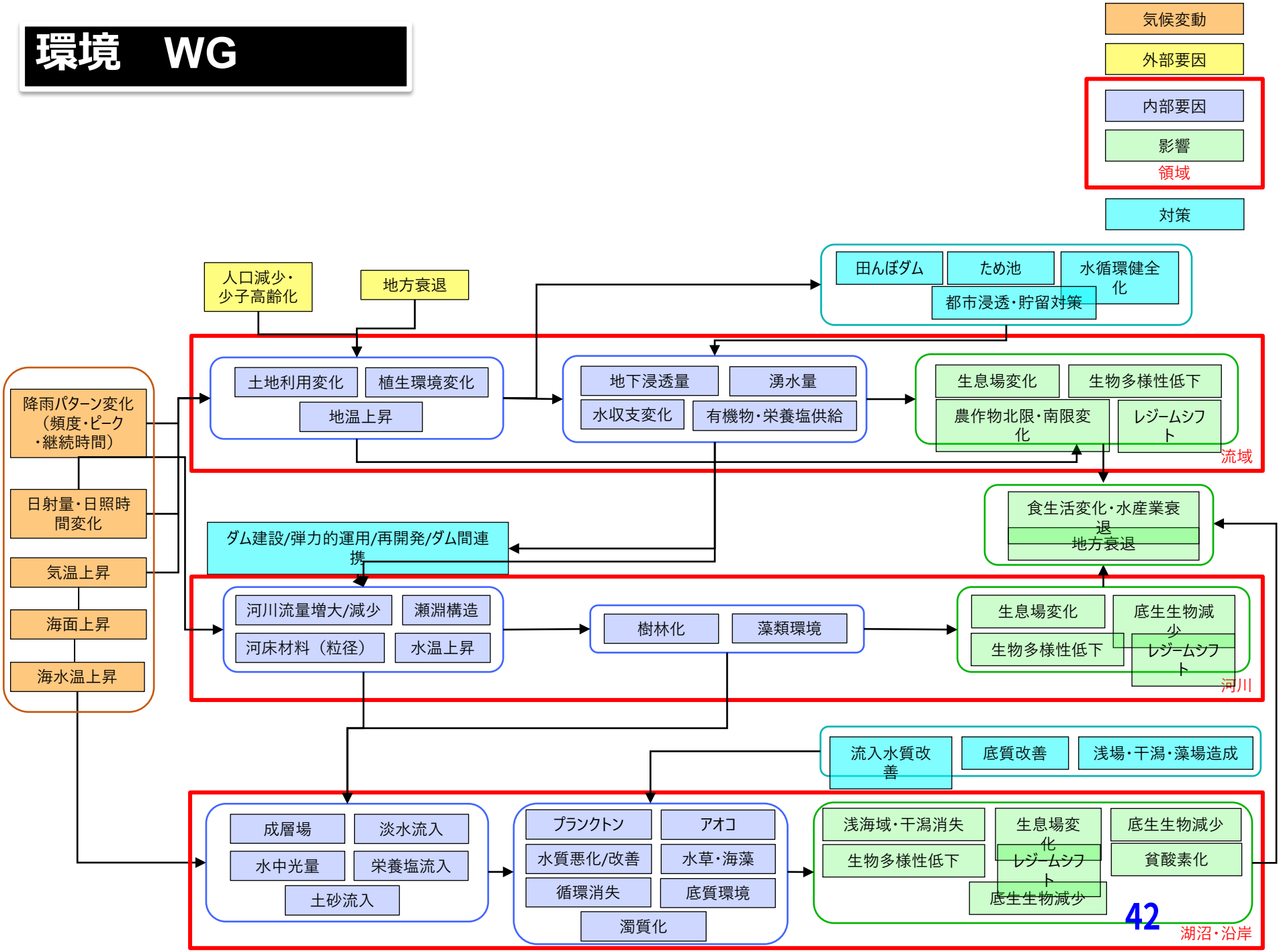
洪水/治水　WG


気候変動　→　大気循環場の変化、海氷融解、海水温上昇
豪雨現象
（台風、梅雨前線、低気圧、ゲリラ豪雨）
緩和策
大気
山地
流域・治水対策
人口・土地利用変化
海面上昇
（平均・変動）
流出
（水・土砂・流木）
氾濫
被害
氾濫原
海岸（港湾）
人口・土地利用変化
洪水伝播
堤防変形
インフラ被災
インフラ老朽化
土砂災害
地形変化
河川
気候変動
外部要因
内部要因
影響
領域
40対策

環境　WG


気候変動
外部要因
内部要因
影響
領域
対策
人口減少・少子高齢化
地方衰退
田んぼダム
ため池
水循環健全化
都市浸透・貯留対策
汚濁負荷削減・管理
降雨パターン変化（頻度・ピーク・継続時間）
日射量・日照時間変化
気温上昇
海面上昇
海水温上昇
土地利用変化
植生環境変化
地温上昇
地下浸透量
湧水量
水収支変化
水質浄化機能変化
有機物・栄養塩供給
水源不足（水道水）
地下水枯渇
流域
ダム建設/弾力的運用/再開発/ダム間連携
河川流量増大/減少
瀬淵構造
河床材料（粒径）
水温上昇
樹林化
水質悪化
藻類環境
富（貧）栄養化
生息場変化
底生生物減少
河川
流入水質改善
底質改善
浅場・干潟・藻場造成
成層場
淡水流入
水中光量
栄養塩流入
土砂流入
炭素流入
プランクトン
アオコ
水草・海藻
底質環境
水質悪化/改善
循環消失
濁質化
温室効果ガス
浅海域・干潟消失
塩害
貧酸素化
底生生物減少
富（貧）栄養化
貧酸素化
栄養循環消失
地球温暖化
湖沼・沿岸

環境　WG


気候変動
外部要因
内部要因
影響
領域
対策
人口減少・少子高齢化
地方衰退
田んぼダム
ため池
水循環健全化
都市浸透・貯留対策
降雨パターン変化（頻度・ピーク・継続時間）
日射量・日照時間変化
気温上昇
海面上昇
海水温上昇
土地利用変化
植生環境変化
地温上昇
地下浸透量
湧水量
水収支変化
有機物・栄養塩供給
生息場変化
生物多様性低下
農作物北限・南限変化
レジームシフト
流域
食生活変化・水産業衰退
地方衰退
ダム建設/弾力的運用/再開発/ダム間連携
河川流量増大/減少
瀬淵構造
河床材料（粒径）
水温上昇
樹林化
藻類環境
生息場変化
底生生物減少
生物多様性低下
レジームシフト
河川
流入水質改善
底質改善
浅場・干潟・藻場造成
成層場
淡水流入
水中光量
栄養塩流入
土砂流入
プランクトン
アオコ
水質悪化/改善
水草・海藻
循環消失
底質環境
濁質化
浅海域・干潟消失
生息場変化
底生生物減少
生物多様性低下
レジームシフト
貧酸素化
底生生物減少
湖沼・沿岸

河道管理研究小委員会報告

委員長　田中規夫（埼玉大）、幹事長　戸田祐嗣（名古屋大）、委員　20名

R4年度の活動報告

「堤防の侵食に対する安全性評価のための技術検討フレーム」の検討成果報告

流れ・河床変動解析と堤防侵食フォルト・ツリーを結合させた技術検討フレームをR01年の千曲川での被災事例（上田鉄道橋付近）を対象に構築。検討成果報告会を10月3日に開催。

堤防侵食WG「各地整からの事例に関する振り返りと意見交換」と「現地視察」

意見交換：2022.3.1北陸地整，4.20関東地整，5.18中部地整

現地視察：2022.10.11～12富士川（関東地整）、12.7～9千曲川、常願寺川、神通川（北陸地整）

今後の予定

「堤防の侵食に対する安全性評価のための技術検討フレーム」成果公表作業

技術検討フレームの成果公表（論文投稿等）作業を進める

河積管理WG，堤防侵食WG活動

アカデミックリサーチマップ，フィージビリティ・スタディ等について検討を進める

R5年度からの体制（6月開催予定の第1回小委員会で承認（追認）いただく予定）

顧問　田中規夫（埼玉大）、委員長　戸田祐嗣（名古屋大）、幹事長　溝口敦子（名城大）、学の新委員　岩崎理樹（北大）　他　行政メンバーの交代　含め　合計 21名

水理・水文統計解析研究小委員会

第一回委員会

2023年5月10日　オンライン

1. **今後の委員会の展開に向けて　小林先生（神戸大学）**
   設立経緯の説明
2. **極値統計を実務に応用する際の課題　北野先生（名工大）**
   ～この30年ほどの水文統計をとりまく状況の変化を数理的側面から概観～
3. **河川整備基本方針の変更について　石川河川計画調整室長（国交省）**
   水文統計の役割等の説明，d4pdfの適用法

32名出席

・3つのTaskに分けた活動の実施

Task1: 水理・水文量の極値確率評価法の再構築部会
Task2: 気候変動の検討に必要な新しい手法レビュー部会
Task3: 実務としても学としても裾野を広げる仕組みづくり部会

・第一回委員会時にアンケートを実施

今後の期待や進め方の意見収集

年限を決めた行動計画や今後のスケジュールの具体化の意見があった.

水理・水文統計解析研究小委員会

委員

委員：14名
風間聡（委員長、東北大）
小林健一郎（幹事長、神戸大）
近森秀高（岡山大）
北野利一（名工大）
矢野真一郎（九大）
渡部哲史（九大、比較社会）
萬和明（京都大学）
田中耕司（大阪工大）
仲江川敏之（気象研）
谷口博（神戸高専）
木村延明（農研機構）
山田朋人（北大）
石川博基（水管理・国土保全局　河川計画課　河川計画調整室長）
岡部真人（国土技術センター）

幹事：16名
田中智大（京都大学）
山田真史（京大防災研）
小柴孝太（京大防災研）
川上拓（日本工営）
丸谷靖幸（九州大学）
与賀田隆史（日本工営）
大熊広樹（東洋建設）
尾ノ井龍仁（パシコン）
平子遼（舞鶴高専）
新井涼允（電力中央研究所）
平賀優介（東北大学）
丸尾啓太（農研機構就職予定）
畔柳陽介（パシコン）
辻倉 裕喜（建設技研）
竹本麻理子（応用地質）
福谷陽（関東学院大学）
小山直紀（中央大学）
服部啓太（土木研究所）

学生幹事
井野川七虹（神戸大学）

オブザーバ
寶　馨（防災科研）
田中茂信（京大名誉教授）
葛葉泰久（三重大）
立川康人（京都大学）

河川観測高度化小委員会活動予定

委員会構成

名前	所属	委員	オブザーバー
井口 真生子	(株)ハイドロ総合技術研究所		*
井上和哉	(株)北開水工コンサルタント		*
井上拓也	(株)水文環境		*
上田英滋	三菱電機(株)		*
大森嘉郎	中電技術コンサルタント(株)		*
岡田将治	高知工業高等専門学校	*	
柏田 仁	東京理科大学	*	
勝間田 純一郎	(株)東建エンジニアリング		*
橘田隆史	(株)ハイドロシステム	*	
小林範之	(株)ラグロフ設計工房		*
小山直紀	中央大学研究開発機構	*	
平 謙二	三菱電機エンジニアリング(株)		*
田方俊輔	日本工営(株)		*
墳原 学	(株)YDKテクノロジーズ	*	
椿 涼太	名古屋大学	*	
出口 恭	(株)ニュージェック		*
手計太一+	中央大学	*	
二瓶泰雄	東京理科大学		*
橋場 雅弘	(株)福田水文センター	*	
藤田一郎	(一財)建設工学研究所		*
藤田士郎	国交省 水管理・国土保全局 河川計画課 河川情報企画室	*	
望月優生	いであ(株)		*
本永良樹	(一財)河川情報センター	*	
安田浩保	新潟大学	*	
山崎大	東京大学生産技術研究所		
横路朋子	パシフィックコンサルタンツ(株)		*
萬矢敦啓	土木研究所	*	
渡邊明英	(株)東京建設コンサルタント	*	

+小委員長

R5年度～の主な活動

- 観測
  - 4月に魚野川で融雪出水を対象に実施予定であったが十分な積雪・融雪ながく延期しました.
    - **昨年度の水工学委員会予算で準備費用をいただきました. 再挑戦いたします.**
  - 6月の北海道・札内川フラッシュ放流にて実施予定
- オンライン勉強会を開催予定（日時・内容は未定）
- オンライン論文誌（河川観測の新時代/ New Waves in Hydrometry ）を発行中
  - 過去の合同観測会の報告を，観測データの公開と併せて準備中

河川観測の新時代

New Waves in Hydrometry

- https://committees.jsce.or.jp/hydraulic06/node/17
- 河川観測の新時代は、水文過程や河川環境の計測に携わる技術者向けの雑誌です。
- 水文過程は水と物質（溶存物質、土砂、流木等）を含み、河川環境には、水面下・水面上の地形や地表・地表下の特性を対象とします。
- 省コスト手法，観測手順や装置のセットアップについての詳細な記述，考察を添えた失敗事例報告についても本雑誌では積極的に受け入れます。
- 英文も歓迎．これまでの取り組みの総説なども．
- 投稿や編集部への問い合わせについては，hydrometry@ml-jsce.jp

水工学オンライン小委員会報告

- メンバー　※2023年5月29日現在
  武田(中部大)，重枝(九工大)，柏田(東京理科大)，田井(九大)，竹村(中央大)，東(国立環境研究所)，吉川(長崎大)，後藤岳久(中央大)，小山直紀(中央大)，原田守啓(岐阜大)，山崎大(東大)，(5月31日締切で各部会・研究小委員会に委員選出を依頼中)
- オブサーバー
  泉典洋 水工学委員会委員長，佐山敬洋 同幹事長，谷口健司 前委員長
- 担当
  水工学オンライン連続講演会，他

水工学オンライン連続講演会

回	開催日時	講師	演習題目・内容
18	2022年12月14日 (水)17時～	桑江 朝比呂 先生 (海上・港湾・航空技術研究所)	題目 「グリーン・グレーインフラによる気候変動の緩和と適応」
19	2023年2月28日 (火)18時～	川口　剛 様 (株式会社パスコ)	題目 「人工衛星に関する技術/利用事業及び水工学分野へのデータ活用事例の紹介」
20	2023年4月28日 (金)17時～	冨永 晃宏 先生 (名古屋工業大学名誉教授)	題目 「実験室から現場の水理現象へ」

今後の予定

第21回　2023年6月　水文部会（＊水理・水文統計解析研究小委員会）

土木学会論文集編集委員会

編集調整会議

2023年4月28日

投稿数は全体として若干減少. コロナ期に増えた反動.

新委員構成:

小委員長　戸田先生(名古屋大学)

幹事長　岩崎先生(北大)→山中先生(徳島大学)

規則一部改訂

投稿先内容:昨年に報告

二重投稿:継続審議

プレプリントの取り扱い, 全くのオリジナルとするか？／

査読無し公表原稿を認めるか？

異議申し立て制度:継続審議

特集号のEMスケジュール:特集号編集小委員会から報告

マイナーチェンジ

論文集の規定が特集号にも適用されるので注意・注目が必要

土木学会論文集編集委員会

水圏工学編集小委員 （21小委員会）

委員長	戸田佑嗣	名古屋大学	新任
委員	厳島怜	東工大	
委員	遠藤徹	大阪公立大学	新任
委員	梶川勇樹	鳥取大学	新任
委員	相馬一義	山梨大学	
委員	原田守啓	岐阜大学	
委員	吉田圭介	岡山大学	新任
幹事長	山中亮一	徳島大学	幹事→幹事長
幹事	内海信幸	東工大	新任

2023 年 6 月 1 日

流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会　報告

■ 現在の体制

座長　立川康人京都大学教授

幹事　田中尚人熊本大学准教授，市川温京都大学教授

委員　7 名

計　10 名

■ 2022 年度活動報告

第 10 回流域管理と地域計画の連携方策に関するワークショップ（2023 年 1 月 17 日）を土木学会講堂＋オンラインにて開催した。ワークショップは二部構成で、第一部は「まちづくりや土地利用計画と連携した流域治水の本格的実践－大和川を対象に―」と題して、流域治水の実践事例に関する話題提供と議論を行い、第二部は「これからの流域治水の取組に向けて ～河川砂防技術研究開発公募制度～」と題して、当該公募制度での研究成果の報告と議論を行った。参加者数は、現地会場・zoom・Youtube の合計で約 600 名だった。

総合討議の様子

■ 2023 年度活動計画

流域管理と地域計画の連携方策に関するワークショップ（秋～冬）の開催を予定している。

水害対策小委員会

2023年2月以降の活動

2023年2月：　**河川災害に関するシンポジウムの開催（オンライン）**
Zoom形式 69名，YouTube形式 263名の合計332名
（前年度：277名）

2023年3月：　**第六回土木建築タスクフォース　災害連携WG**

2023年度の予定

2023年6月：　【建築学会】水害・土砂災害等による
建築物等の被災調査マニュアル検討WG

2023年6月：　2023年度第一回水害対策小委員会開催（対面）

2023年2月：　**河川災害に関するシンポジウムの開催**

- 国内・海外の水害調査団結成のサポート
- 建築学会とのコラボレーション
- 水害対策小委員会HPの充実
- 消防連携WG
- 災害写真データベースWG
- 水害対策小委員会災害調査データベースWG
- SNSを用いた災害情報収集

WG設置申請書

災 害 委 員 会

災害委員会

新設 WG 名称

水害・土砂災害等による建築物等の被災調査マニュアル検討 WG

英文名称

WG on Disaster Investigation for Building Caused by Floods, Landslides, etc.

組織図（周辺の位置づけを図示）

災害委員会 ――― 水害・土砂災害等による建築物等の被災調査マニュアル検討 WG

（連携）土木学会　　水工学委員会水害対策小委員会

直上委員会の活動目的（設置期間 4 年）と
新設 WG の活動目的（直上委員会とのかかわりにおいて）

災害委員会は、主として建築物の地震災害とその抑制に関する調査研究、および、報告書の編集、シンポジウム等成果の普及を目的として活動を行っている。一方、近年、異常気象等により水害（洪水・内水氾濫・高潮等）や土砂災害（土石流・地すべり・崖崩れ等）による建築・まちの災害が多発している。従来の水害・土砂災害対策は主に土木分野のハード対策と警戒避難体制の整備であったが、近年では集水域から氾濫域まで流域の関係者全員の連携による対策が必須であり、建築・まちづくり分野の対応が求められている。このため日本建築学会と土木学会は 2021 年 11 月 11 日に MOU を締結し、災害等を含む様々な分野で調査研究に関する連携した体制の整備を進めている。本WGは、土木学会側の調査担当である水工学委員会水害対策小委員会と連携して、建築・まちにおける水害・土砂災害等による建築物等の被害・復旧に関する被災調査、報告書の発行、報告会等による普及の方法とあり方を検討し提案する。

活動計画（設置期間　2023 年 4 月　～　2025 年 3 月）　　**＊最長 2 年まで**

	１年め	土木学会と連携して、水害・土砂災害の被災調査の現状と課題を整理し、有効な被災調査体制を検討する。
	２年め	土木学会と連携して、水害・土砂災害の被災調査の現状と課題を整理し、有効な被災調査体制の整備を継続し，災害時の土木学会との連携による災害調査体制の構築および調査方法についてのマニュアルを作成する。

WG 名簿（定員 15）　**＊必ず会員番号を記入のこと。主査・幹事・委員（氏名五十音順）の順番で記載のこと。**

番号	会員番号	役職（主査・幹事）	氏名	勤務先
1.	8604599	主査	久田嘉章	工学院大学
2.	9214101	幹事	長谷川兼一	秋田県立大学
3.	0314506	幹事	壁谷澤寿一	東京都立大学
4.	7222548		田村和夫	神奈川大学、建築都市耐震研究所
5.	0934827		小山 毅	東京電機大学
6.	0124448		藤本郷史	宇都宮大学
7.	0230859		石原沙織	千葉工業大学
8.	0112792		西嶋一欽	京都大学防災研究所
9.	9713143		村上正浩	工学院大学
10.	0308814		中谷岳史	信州大学
11.	1109263		浅井竜也	名古屋大学
12.	1422132		有川太郎	中央大学
13.	1333391		野口雄太	福岡大学
14.	会員外		二瓶泰雄	東京理科大学 理工学部 土木工学科
15.	会員外		土木学会水工学委員会水害対策小委員会委員長（2023 年度）	

IAHR Japan Chapter 報告

2022年11月23日にオンラインで総会を開催
主に下記事項について情報交換した。

・新支部長に角先生（京都大）を選出。副支部長に田中規夫先生（埼玉大）、関根先生（早稲田大）、大石先生（神戸大）を選出。

・Asia and Pacific DivisionのChairに田中規夫先生が選出される。

・40th World Congress（開催地：ウィーン）は、2023年8月21～25日に開催。

・24th APD-IAHR大会（開催地：武漢）は2024年に開催。

・国際会議の情報の集約と発信（共有化）、若手の参加を促す。

・MLへの追加希望があれば、川池まで。

2023 年 5 月 19 日

水工学委員会
委員長 立川 康人 様

公益社団法人 土木学会
調査研究部門
主査理事　勝見　武

2022 年度 調査研究委員会の活動度評価の結果
および 2023 年度調査研究費予算配分について（ご報告）

土木学会調査研究部門会議は、調査研究部門に所属する委員会の 2022 年度における活動度について、厳正に評価いたしました。

その結果、貴委員会の活動度の評価結果は下記のとおりとなりましたので、ご報告いたします。

なお、ご参考までに 2018 年度～2022 年度の総合評価を併記いたしますとともに、「2022 年度実績の委員会情報発信数」を添付いたします。

記

１．2022 年度実績の委員会活動度評価結果および 2023 年度予算配分額

年度	情報発信数			活動度評価ランク	2023 年度配分額
	①行事参加者数	②出版物購読者数	合計（①+②）		
2022 年度	7035 人	887 人	7922 人	A	881 千円

- 上記配分額には、調査研究拡充支援金を含みません。
- 活動度評価が C ランクとなった委員会は、研究企画委員会に対して活動内容、情報発信数が低迷した理由及び情報発信数以外で評価して欲しい点を別紙にて報告するものとする。
- 活動度改善に向けて、調査研究部門としても適宜個別にアドバイスさせて頂きますので、何かございましたら問合窓口までお知らせください。また、評価結果に異議のある委員会についても問合窓口までご連絡ください。

２．〔参考〕活動度評価ランクと予算配分の関係

活動度評価ランク	情報発信数	予算配分
A	2,500 人以上	予算総額に応じて 55 万円＋情報発信数に応じた金額。ただしＡランクの情報発信数は 2,500 人として計算※。
B	500 人以上 2,500 人未満	
C	500 人未満	一律 55 万円

※Ａ，Ｂランクの委員会の予算配分方法

予算配分額＝55 万円 ＋ 情報発信数（500 人超分）に比例した金額

＝55 万円 ＋（S－55 万円 ×n）×a ／ b

ここに、S：当該年度の調査研究委員会の総予算額（2023 年度調査研究部門予算から新規制度等調査研究費（重点研究課題）ならびに研究企画委員会予算を除いた 21,361 千円）

a：当該委員会の情報発信数（Ａランクは 2,500 人とする）－500 人

b：全委員会の a の合計（2022 年度：32,702 人）

n：委員会数（現在 29、研究企画委員会は含まず）

３．〔参考〕2018 年度～2022 年度の貴委員会の総合評価

年度	総合評価
2018 年度	A
2019 年度	A
2020 年度	A
2021 年度	A
2022 年度	A

問合窓口：事務局 研究事業課長 飯野（minoru@jsce.or.jp）

以 上

1) 土木学会論文集特集号（水工学）編集小委員会委員構成

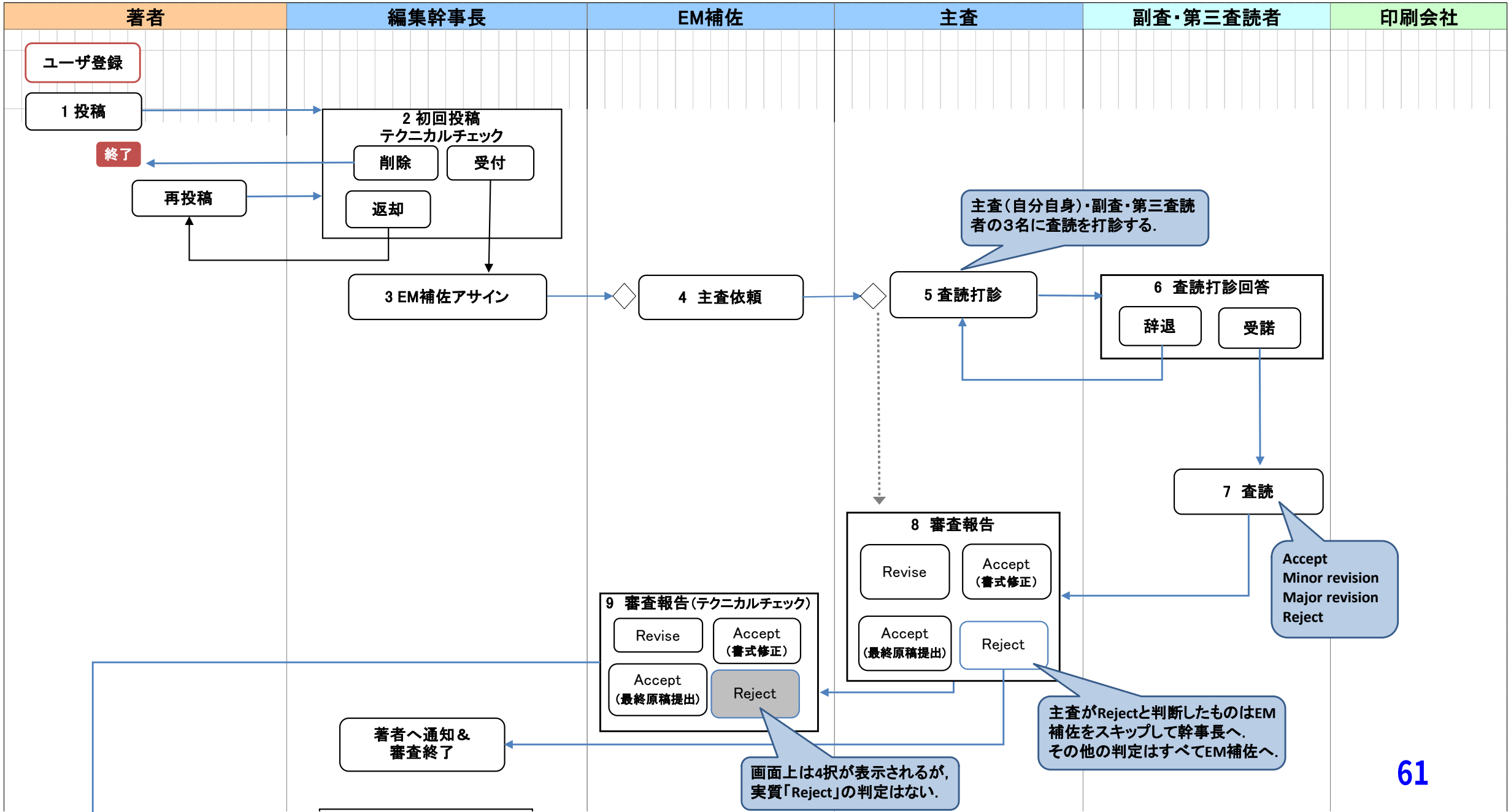
	委員区分	氏名	勤務先	査読部門	水工学委員会委員区分
1	委員長	泉 典洋	北海道大学	ー	委員長
2	幹事長	佐山 敬洋	京都大学防災研究所	ー	幹事長
3	編集幹事長	小田 僚子	千葉工業大学	ー	編集幹事長
4	委員兼幹事（編集幹事長補佐）	溝口 敦子	名城大学	ー	委員兼幹事
1	委員兼幹事	市川 温	京都大学	水文・水資源	委員兼幹事
2	委員兼幹事	大石 哲	神戸大学	水文・水資源	委員
3	委員兼幹事	鼎 信次郎	東京工業大学	水文・水資源	委員
4	委員兼幹事	田中 賢治	京都大学	水文・水資源	委員
5	委員兼幹事	谷口 健司	金沢大学	水文・水資源	委員兼幹事
6	委員	石平 博	山梨大学	水文・水資源	
7	委員	井上 一哉	神戸大学	水文・水資源	
8	委員	柿沼 太貴	土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター	水文・水資源	委員
9	委員	風間 聡	東北大学	水文・水資源	委員兼幹事
10	委員	呉 修一	富山県立大学	水文・水資源	
11	委員	小林 健一郎	神戸大学	水文・水資源	委員兼幹事
12	委員	瀬戸 心太	長崎大学	水文・水資源	
13	委員	相馬 一義	山梨大学	水文・水資源	
14	委員	辻本 久美子	岡山大学	水文・水資源	
15	委員	手計 太一	中央大学	水文・水資源	委員兼幹事
16	委員	中川 啓	長崎大学	水文・水資源	
17	委員	中村 要介	三井共同建設コンサルタント株式会社	水文・水資源	委員
18	委員	平林 由希子	芝浦工業大学	水文・水資源	委員兼幹事
19	委員	森脇 亮	愛媛大学	水文・水資源	委員兼幹事
20	委員	山口 弘誠	京都大学防災研究所	水文・水資源	委員
21	委員	山田 朋人	北海道大学	水文・水資源	委員
22	委員	横尾 善之	福島大学	水文・水資源	
23	委員	芳村 圭	東京大学生産技術研究所	水文・水資源	委員
24	委員（EM補佐）	稲垣 厚至	東京工業大学	水文・水資源	
25	委員（EM補佐）	渡部 哲史	九州大学	水文・水資源	
26	委員（EM補佐）	丸谷 靖幸	九州大学	水文・水資源	
1	委員兼幹事	山上 路生	京都大学	水理	委員
2	委員兼幹事	重枝 未玲	九州工業大学	水理	委員兼幹事
3	委員兼幹事	武田 誠	中部大学	水理	委員
4	委員兼幹事	田端 幸輔	国土技術政策総合研究所	水理	委員
5	委員兼幹事	二瓶 泰雄	東京理科大学	水理	委員
6	委員	赤穂 良輔	岡山大学	水理	
7	委員	川池 健司	京都大学	水理	委員
8	委員	佐藤 隆宏	電力中央研究所	水理	委員
9	委員	杉原 裕司	九州大学	水理	委員
10	委員	高橋 正行	日本大学	水理	委員兼幹事
11	委員	田中 規夫	埼玉大学	水理	委員兼幹事
12	委員	椿 涼太	名古屋大学	水理	委員兼幹事
13	委員	横嶋 哲	静岡大学	水理	
14	委員（EM補佐）	橋本 雅和	関西大学	水理	
15	委員（EM補佐）	岡本 隆明	名城大学	水理	
1	委員兼幹事	音田 慎一郎	京都大学	流砂	委員
2	委員兼幹事	川村 里実	寒地土木研究所	流砂	委員
3	委員	井上 卓也	広島大学	流砂	
4	委員	岩崎 理樹	北海道大学	流砂	委員兼幹事
5	委員	内田 龍彦	広島大学	流砂	委員
6	委員	岡村 誠司	いであ株式会社	流砂	委員
7	委員	陰山 建太郎	日本工営株式会社	流砂	委員
8	委員	竹林 洋史	京都大学	流砂	委員兼幹事
9	委員	三輪 浩	鳥取大学	流砂	
10	委員（EM補佐）	山野井 一輝	京都大学防災研究所	流砂	
1	委員兼幹事	田井 明	福岡工業大学	流域圏環境	
2	委員兼幹事	宮本 仁志	芝浦工業大学	流域圏環境	委員兼幹事
3	委員	赤松 良久	山口大学	流域圏環境	委員兼幹事
4	委員	石塚 正秀	香川大学	流域圏環境	
5	委員	厳島 怜	東京工業大学	流域圏環境	
6	委員	入江 政安	大阪大学	流域圏環境	委員
7	委員	梅田 信	日本大学	流域圏環境	委員兼幹事
8	委員	大槻 順朗	山梨大学	流域圏環境	
9	委員	高橋 直己	香川高等専門学校	流域圏環境	委員兼幹事
10	委員	中山 恵介	神戸大学	流域圏環境	委員
11	委員	原田 守啓	岐阜大学	流域圏環境	
12	委員	矢野 真一郎	九州大学	流域圏環境	委員兼幹事
13	委員	横山 勝英	東京都立大学	流域圏環境	
14	委員（EM補佐）	溝口 裕太	土木研究所	流域圏環境	
15	委員（EM補佐）	片岡 智哉	愛媛大学	流域圏環境	
1	委員兼幹事	川越 清樹	福島大学	管理の技術・制度	委員
2	委員兼幹事	戸田 祐嗣	名古屋大学	管理の技術・制度	委員兼幹事
3	委員	荒木 千博	株式会社建設技術研究所	管理の技術・制度	委員
4	委員	岡田 将治	高知工業高等専門学校	管理の技術・制度	
5	委員	長田 健吾	阿南工業高等専門学校	管理の技術・制度	
6	委員	瀬崎 智之	国土技術政策総合研究所	管理の技術・制度	委員
7	委員	田代 喬	名古屋大学	管理の技術・制度	
8	委員	堀 智晴	京都大学防災研究所	管理の技術・制度	
9	委員	渡邊 武志	パシフィックコンサルタンツ株式会社	管理の技術・制度	委員
10	委員（EM補佐）	阿部 孝章	寒地土木研究所	管理の技術・制度	

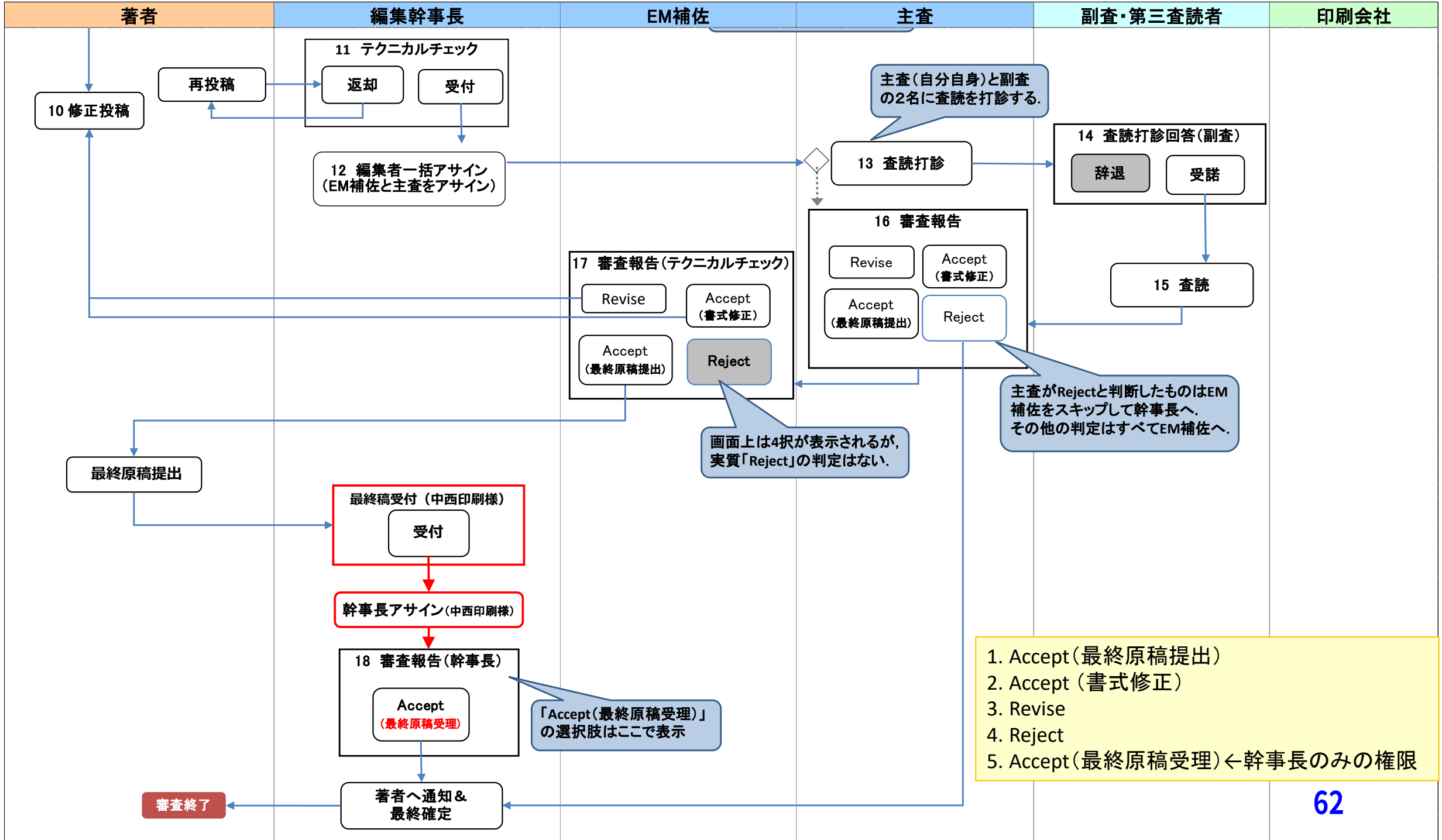
2) 投稿～J-Stage論文公開までの流れ

日程	会議・工程	著者	編集幹事長	EM補佐	幹事	主査	副査	第三査読者	参考（担当）	会場
2023年4月28日(金)	論文投稿受付開始	○							著者	
2023年5月24日(水)	**第1回編集小委員会 10:00～12:00，編集作業の確認**		○	○	○	○	○			zoom
2023年5月31日(水)	論文投稿受付締切	○	○						著者→編集幹事長	
2023年6月6日(火)	**第1回編集小委員会幹事会（主査・副査の決定）13:00～17:00**		○		○				編集幹事長・編集幹事	zoom&Google Spread sheet
2023年6月7日(水)午後 ～6月9日(金)	第2回編集小委員会（メール：査読依頼）		○	○	○	○	○			
	EM補佐に論文割り当て（幹事長がEM補佐をアサイン）		○	○					編集幹事長→EM補佐	
	主査に論文割り当て（EM補佐が主査をアサイン）			○		○			EM補佐→主査	
	主査が副査と相談（確認）のうえ第三査読者を選定					○	○		主査・副査	Google Spread sheet
	主査が副査・第三査読者を割り当て （主査が副査と第三査読者をアサイン）					○	○	○	主査→副査・第三査読者	
～6月15日(木)	**第三査読者の決定期限（主査が副査と第三査読者のアサインを完了）**					○	○	○	主査→副査・第三査読者	
2023年7月7日(金)	**第1回査読期限（期限以前でも回答が揃ったら順に審議してOK）**					○	○	○	主査・副査・第三査読者	
2023年7月11日(火) ～7月14日(金)	第1回査読結果取りまとめ ＆著者への査読結果配信期限 ※EM補佐はメール文面・宛先の確認を行う．			○		○			主査→EM補佐 （Rejectは編集幹事長へ）	
	第3回編集小委員会（メール：返却論文，要修正論文，登載論文の決定）		○	○	○	○	○			
2023年8月4日(金)	**修正原稿受付締切（修正期間3週間で設定）**	○	○						著者→編集幹事長	
2023年8月7日(月) ～8月22日(火)	幹事長がEM補佐・主査に修正論文割り当て		○	○		○			編集幹事長→EM補佐・主査	
	主査が副査を割り当て＆主査・副査で修正内容確認および判定					○	○		主査→副査 ／ 主査・副査	
2023年8月22日(火)	**第2回査読期限**					○	○		主査→EM補佐	
2023年8月22日(火) ～8月25日(金)	著者への第2回査読結果配信（著者の修正・提出期間は1週間以内） ※EM補佐はメール文面・宛先の確認を行う．この時点でAccept（最終原稿提出依頼）の判定であれば，チェックリストの内容も確認する．		○	○					EM補佐→著者	
2023年9月5日(火)	著者への「Accept（最終論文提出依頼）」配信期限 ※EM補佐はチェックリストの内容とメール文面・宛先の確認を行う．		○	○		○			主査→EM補佐→著者	
2023年9月12日(火)	最終原稿締切	○							著者→校閲業者	

日程	会議・工程	著者	編集幹事長	EM補佐	幹事	主査	副査	第三査読者	参考（担当）	会場
2023年9月13日(水)～9月20日(水)	最終原稿確認（校閲業者によるテクニカルチェック）								校閲業者	
	著者へ「Accept（最終論文受理）」の通知（編集幹事長から）		○						校閲業者→編集幹事長→著者	
	第4回編集小委員会（メール：登載論文，返却論文の最終決定）		○	○	○	○	○			
2023年9月25日(月)～9月28日(木)	プログラム編成準備		○						編集幹事長	
2023年9月29日(金)～10月4日(水)	プログラム編成，講演番号発行		○		○				編集幹事長・編集幹事	
2023年10月10日(火)～10月13日(金)	公開に向けたシステム上の作業		○						編集幹事長	
	プログラム公開		○						編集幹事長	
2023年10月24日(火)～10月27日(金)	講演会資料（PDF）公開に向けた作業		○						編集幹事長	
	講演会資料（PDF）公開		○						編集幹事長	
2023年12月11日(月)～12月14日(木)	**第68回水工学講演会**									**大阪大学**
2024年1月中旬～下旬	J-Stageホームページ掲載情報のチェック		○	○					編集幹事長，EM補佐	
2024年1月下旬～2月上旬	J-Stage論文として土木学会論文集特集号（水工学）を公開									

3) Editorial Manager作業フローの確認




著者
編集幹事長
EM補佐
主査
副査・第三査読者
印刷会社
10 修正投稿
再投稿
11 テクニカルチェック
返却
受付
12 編集者一括アサイン
(EM補佐と主査をアサイン)
主査(自分自身)と副査の2名に査読を打診する.
13 査読打診
14 査読打診回答(副査)
辞退
受諾
15 査読
16 審査報告
Revise
Accept (書式修正)
Accept (最終原稿提出)
Reject
17 審査報告(テクニカルチェック)
Revise
Accept (書式修正)
Accept (最終原稿提出)
Reject
画面上は4択が表示されるが,
実質「Reject」の判定はない.
主査がRejectと判断したものはEM補佐をスキップして幹事長へ.
その他の判定はすべてEM補佐へ.
最終原稿提出
最終稿受付 (中西印刷様)
受付
幹事長アサイン(中西印刷様)
18 審査報告(幹事長)
Accept (最終原稿受理)
「Accept(最終原稿受理)」の選択肢はここで表示
著者へ通知&
最終確定
審査終了
1. Accept(最終原稿提出)
2. Accept (書式修正)
3. Revise
4. Reject
5. Accept(最終原稿受理)←幹事長のみの権限

4) 投稿論文フォーマットの主要な変更点の確認

（1） 参考文献の記載方法

REFERENCESの文献は英語表記とし，和文の場合は [ ] 内に英文を併記します．
正式な英語タイトルがないものの表記方法は著者責任としており，独自に英訳しても，ローマ字表記としても，受け付けています（土木学会に確認済）．

参考）土木学会論文集投稿要領　https://committees.jsce.or.jp/jjsce/node/71

【土木学会論文集投稿要領P.8　REFERENCESの記載例】
2）日本道路協会：道路橋示方書・同解説IV下部構造編，pp.110-119，1996. [Japan Road Association：Dorokyo shihosyo & Doukaisetsu IV Kabukouzo-hen, pp.110-119, 1996.]

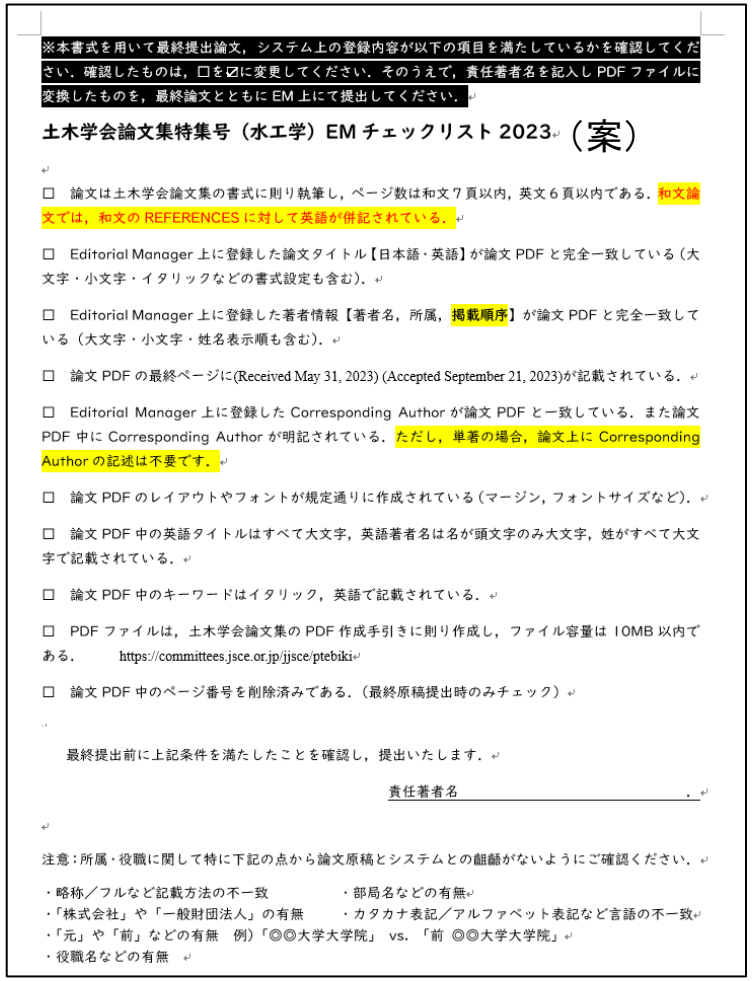
【土木学会論文集投稿要領P.7(12)】
2) REFERENCESには，論文登載後に時間が経過しても入手可能なものだけを挙げること．インターネット上のホームページについても，半永久的にたどれるものに限る．私信なども含めそれ以外は，本文末のREFERENCESに挙げずにNOTESで示すこと．

（2） ページ数制限の変更

REFERENCESの英文併記に伴い，和文論文のページ数上限を昨年度までの6ページから7ページに変更しました．7ページ数行しかない原稿でも「可」となります．
英文論文の上限は6ページのままです．

投稿論文における書式ミスの取り扱い

今回はフォーマットを変更して最初の投稿であることから，上記REFERENCESに関するフォーマット違い（英文未併記）が多い可能性があります．
初回であることを考慮し，今回は投稿論文を受理し，査読時に主査より指摘していただき，最終原稿では土木学会論文集のフォーマットであるものを受け付けます．



※本書式を用いて最終提出論文，システム上の登録内容が以下の項目を満たしているかを確認してください．確認したものは，☐を☑に変更してください．そのうえで，責任著者名を記入し PDF ファイルに変換したものを，最終論文とともに EM 上にて提出してください．

土木学会論文集特集号（水工学）EM チェックリスト 2023（案）

☐ 論文は土木学会論文集の書式に則り執筆し，ページ数は和文 7 頁以内，英文 6 頁以内である．和文論文では，和文の REFERENCES に対して英語が併記されている．

☐ Editorial Manager 上に登録した論文タイトル【日本語・英語】が論文 PDF と完全一致している（大文字・小文字・イタリックなどの書式設定も含む）．

☐ Editorial Manager 上に登録した著者情報【著者名，所属，掲載順序】が論文 PDF と完全一致している（大文字・小文字・姓名表示順も含む）．

☐ 論文 PDF の最終ページに(Received May 31, 2023) (Accepted September 21, 2023)が記載されている．

☐ Editorial Manager 上に登録した Corresponding Author が論文 PDF と一致している．また論文 PDF 中に Corresponding Author が明記されている．ただし，単著の場合，論文上に Corresponding Author の記述は不要です．

☐ 論文 PDF のレイアウトやフォントが規定通りに作成されている（マージン，フォントサイズなど）．

☐ 論文 PDF 中の英語タイトルはすべて大文字，英語著者名は名が頭文字のみ大文字，姓がすべて大文字で記載されている．

☐ 論文 PDF 中のキーワードはイタリック，英語で記載されている．

☐ PDF ファイルは，土木学会論文集の PDF 作成手引きに則り作成し，ファイル容量は 10MB 以内である． https://committees.jsce.or.jp/jjsce/ptebiki

☐ 論文 PDF 中のページ番号を削除済みである．（最終原稿提出時のみチェック）

最終提出前に上記条件を満たしたことを確認し，提出いたします．

責任著者名 ．

注意：所属・役職に関して特に下記の点から論文原稿とシステムとの齟齬がないようにご確認ください．

・略称／フルなど記載方法の不一致　・部局名などの有無
・「株式会社」や「一般財団法人」の有無　・カタカナ表記／アルファベット表記など言語の不一致
・「元」や「前」などの有無　例）「◎◎大学大学院」 vs. 「前 ◎◎大学大学院」
・役職名などの有無

2023年水工学講演会

協議資料2203-？？

- 2023年12月11日（月）～13日（水）実施

大阪大学中之島センター・大阪中之島美術館

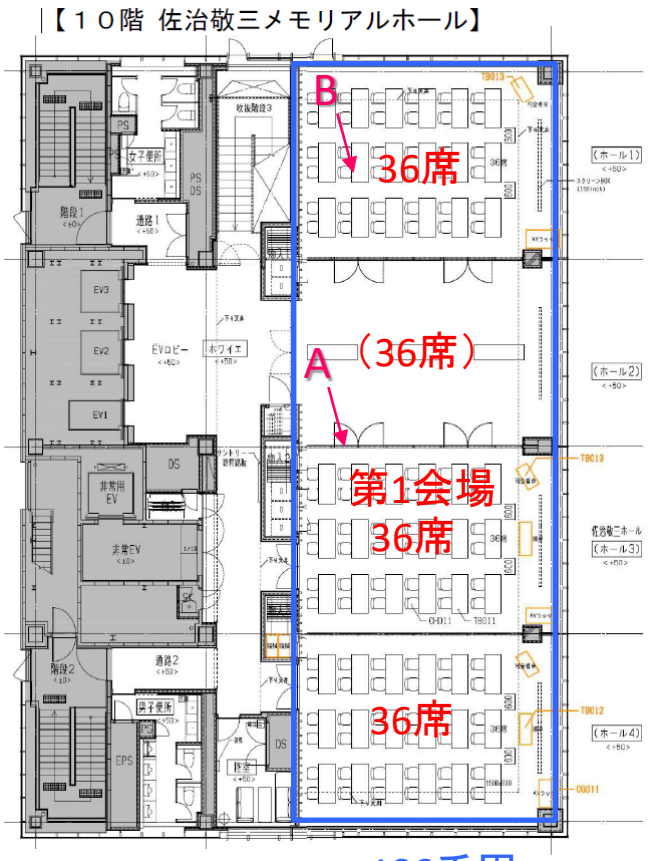
○大阪市内・中之島に所在，目の前は堂島川
○海岸工学講演会実施実績あり　周辺ホテルあり

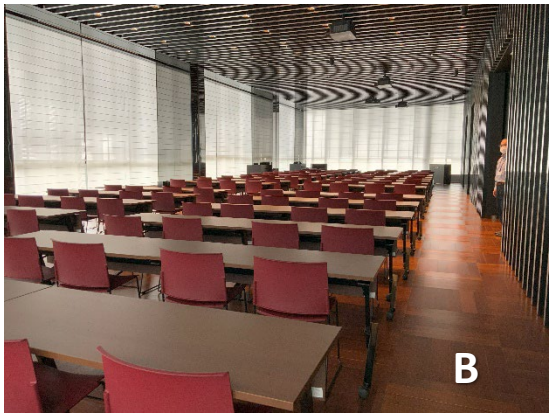
Osaka Metro
四つ橋線 肥後橋駅徒歩約10分
御堂筋線 淀屋橋駅徒歩約15分
京阪電車
中之島線 渡辺橋駅徒歩約5分
本線　淀屋橋駅徒歩約15分
JR
大阪環状線 福島駅徒歩約10分
大阪駅徒歩約20分

懇親会場
中之島公会堂
地下

中之島センター　10階

天吊PJ、天吊Webカメラ、無線ハンドマイク、
ピンマイク、Eduroam

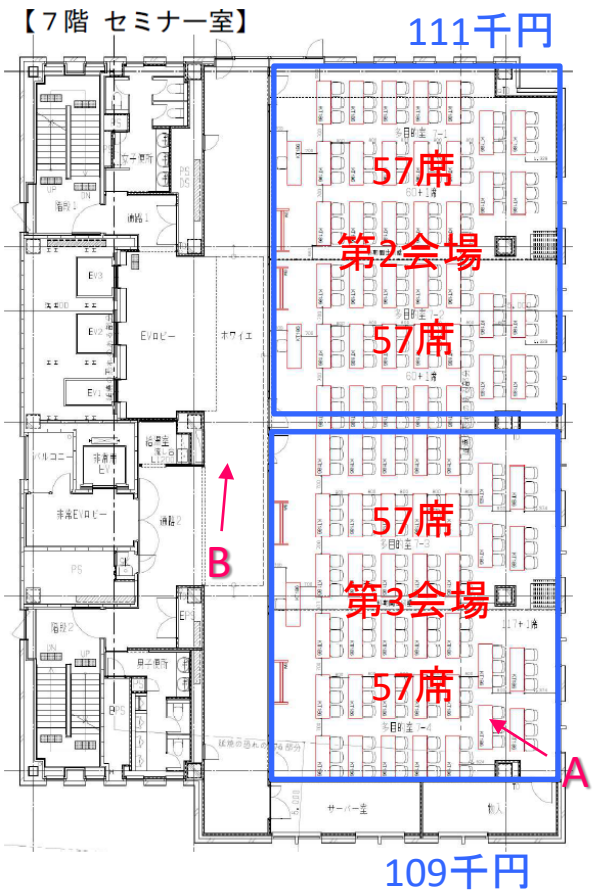


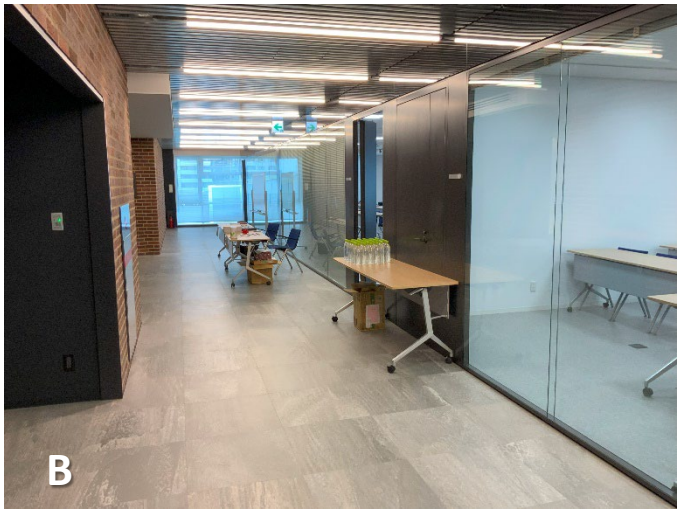


使用料（共催）　607千円/日　3日間の場合　前日夜含め200万円

中之島センター　7階

天吊PJ、天吊Webカメラ、無線ハンドマイク、
ピンマイク、Eduroam

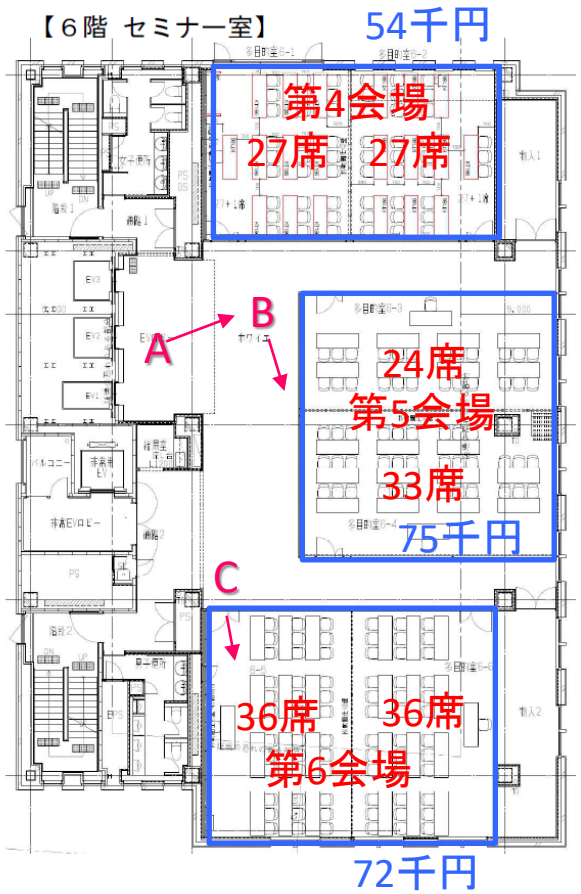


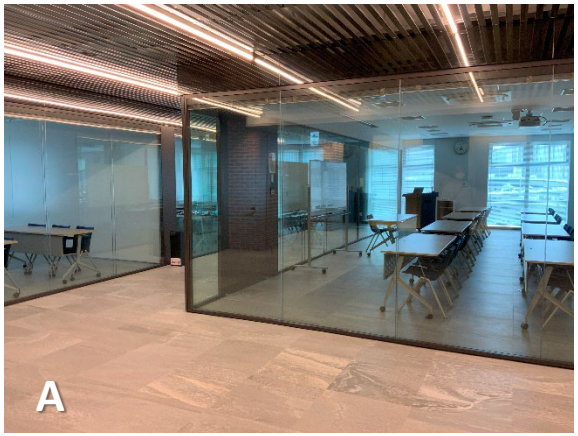


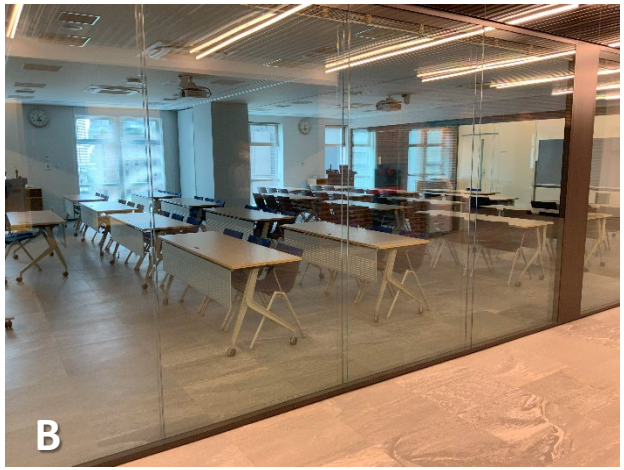
使用料（共催） 607千円/日　3日間の場合　前日夜含め200万円

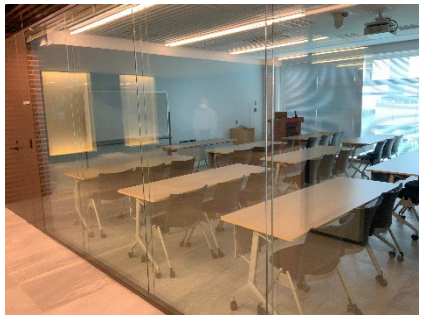
中之島センター　6階

天吊PJ、天吊Webカメラ、無線ハンドマイク、
ピンマイク、Eduroam



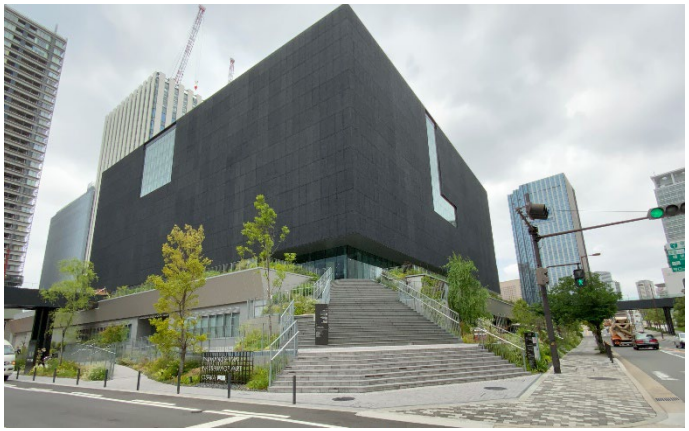






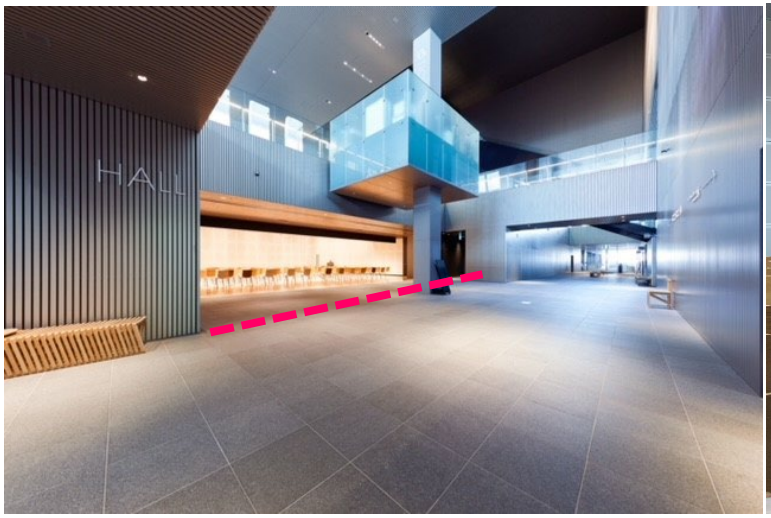
中之島美術館ホール（1階）

天吊PJ、無線ハンドマイク、配信機能なし

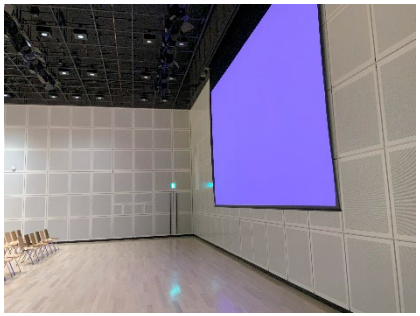


北側エントランス

南側エントランス



壁開放時　席追加で400名
（月曜日休館日）



200名座席配置　（300名まで可）
（火曜日開館日）

会場詳細（費用は付帯設備使用料込み）

階数	名称	定員	面積㎡	会場割付（仮）	貸付料	設備
10階	佐治ホール1	36	73		15,200円	スクール・2人掛、天吊PJ-1、天吊Webカメラ-1、無線ハンドマイク-3、ピンマイク-1、ODINS
	佐治ホール2	36	72		15,000円	
	佐治ホール3	36	77	第1会場	16,000円	スクール・2人掛、天吊PJ-1、天吊Webカメラ-1、無線ハンドマイク-7、ピンマイク-1、ODINS
	佐治ホール4	36	68		14,100円	
	控室	4	9	事務局控室	1,900円	ソファー、姿見鏡
7階	セミナー室7A	57	91	第2会場	18,900円	〔各室共通〕 スクール・3人掛、天吊PJ-1、天吊Webカメラ-1、無線ハンドマイク-7、ピンマイク-1、ODINS
	セミナー室7B	57	87		18,100円	
	セミナー室7C	57	86	第3会場	17,900円	
	セミナー室7D	57	88		18,300円	
6階	セミナー室6A	27	43	第4会場	8,900円	
	セミナー室6B	27	43		8,900円	
	セミナー室6C	24	57	第5会場	11,900円	
	セミナー室6D	33	62		12,900円	
	セミナー室6E	36	60	第6会場	12,500円	
	セミナー室6F	36	56		11,600円	
・上記予約時間単位は、午前：08:30-12:30、午後：13:00-17:00、夜間：17:30-21:30						
中之島美術館ホール		300-400	300-350	美術館会場	全日：23万円 午後：13万円 （税別）	全日　9:00−17:00 午後　13:00−17:00 延長1時間単位可（4万円/時）

水工学講演会　水工学に関する夏期研修会　水シンポジウム

水工 研修 シンポ

回	回	回	年	北海道	東北	関東	中部	関西	四国	中国	西部
	28		1992			東京					
38	29		1993		秋田	中央大					
39	30		1994			中央大		大阪			
40	31		1995	北見		中央大					
41	32	1	1996			中央大				山口 鳥取	
42	33	2	1997					兵庫	徳島	鳥取	
43	34	3	1998		福島		名古屋	立命館大			
44	35	4	1999		日大	東京					北九州
45	36	5	2000			東工大 東京					熊本
46	37	6	2001		山形		名工大 富山				
47	38	7	2002	札幌		早稲田大		京都			
48	39	8	2003						愛媛	岡山	熊本大
49	40	9	2004	釧路		国士舘大				広島	
50	41	10	2005					京都大 大阪	愛媛		
51	42	11	2006		宮城	法政大	岐阜				
52	43	12	2007				愛知			広島大	福岡
53	44	13	2008			芝浦工大 東京 千葉					
54	45	14	2009	北大	郡山		新潟				
55	46	15	2010			東大生研		神戸			福岡
56	47	16	2011					京都	愛媛大	広島	
57	48	17	2012	札幌			名城大 岐阜				
58	49	18	2013				名古屋	神戸大	高知		
59	50	19	2014			早稲田大					北九州 長崎
60	51	20	2015		東北工大	東京		福井			
61	52	21	2016		秋田					山口	九州大
62	53	22	2017					大阪		岡山大	沖縄
63	54	23	2018	北大			静岡			山口	
64	55	24	2019			埼玉大	名古屋	滋賀			
65			2020								
66	56	25	2021			群馬	富山県大		高知		
67	57	26	2022		山形	東京			愛媛大		
68	58	27	2023	札幌				大阪			佐賀
69	59	28	2024				富山 長野	関西			
70	60	29	2025								
71	61	30	2026								
72	62	31	2027								
73	63	32	2028								
74	64	33	2029								
75	65	34	2030								

水シンポ担当部会	夏期研修会
河川	
環境水理	
基礎水理	
水文	
河川	
環境水理	
基礎水理	
水文	
河川	海岸
環境水理	水工
基礎水理	海岸
延期	延期
水文	水工
河川	海岸
環境水理	水工
基礎水理	海岸
水文	水工
河川	海岸
環境水理	水工
基礎水理	海岸

全国大会

日大	関東
大阪大	関西
岡山大	中国
東北大	東北
九大	西部
北大	北海道
香川大	四国
中部（オンライン）	中部
神奈川（平塚，東海大）	関東
京都大	関西
広島大	中国
	東北
	西部
	北海道
	四国
	中部
	関東

未開催県	水シンポ							
		岩手県	茨城県	三重県	奈良県	徳島県	島根県	
		秋田県	栃木県	長野県	和歌山県	香川県	岡山県	大分県
		青森県	埼玉県	石川県				宮崎県
			神奈川県	山梨県				鹿児島県

4th JSCE-CCES Joint Symposiumのご案内

世話役：矢野

- 日程案　2023年10月25日～28日

  10月25日(水)受付

  10月26日(木)会議1日目

  10月27日(金)会議2日目

  10月28日(土)見学会
- 会場：中国　南京市　河海大学　（対面開催）
- 水工学委員会から少なくとも10名程度の参加者を出していただきたい.
- 若手の方に旅費の補助をしていただくよう土木学会と交渉中
- 海岸工学委員会は，講演会が11月にあり，かつAPACも同時開催のため，参加者を増やすのは厳しいといわれている.
- 今回，水工と海岸以外の分野（構造，地盤など）にも声かけして，参加者を増やす予定.
- 詳細が決まり次第，水工学委員会MLで参加募集しますので予定の確保をお願いいたします.
- 注：現在，中国への渡航にはビザが必要．特に地方では，1ヶ月以上前に対応した方が良い.

委員会名：	水工学委員会			
予算執行期間：	2022年4月1日	～	2023年3月31日	
				2023/3/30
調 査 研 究 費 予 算	951,000			
調査研究拡充支援金	4,125,000			
予 算 総 額 計	5,076,000			
支 出 総 額	4,118,043			
差 引 残 額	957,957			
2022年度行事の残高（黒字分）				
水工学講演会	¥577,946			
夏期研修会	¥16,551			
河川シンポ	¥1,251,782			
合計	¥1,846,279			

2023/3/24資料４

R5/6/1現在

			2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	備考
収入	調査研究費		¥1,202,000	¥1,215,000	¥1,127,000	¥680,000	¥1,056,000	¥1,038,000	¥953,000	¥986,000	¥934,000	**¥951,000**	**¥881,000**	
	拡充支援金		¥1,581,000	¥1,898,000	¥1,981,000	¥1,612,000	¥1,372,000	¥3,570,000	¥4,178,000	¥3,305,000	¥5,867,000	**¥4,125,000**	**¥1,850,000**	
	合計		¥2,783,000	¥3,113,000	¥3,108,000	¥2,292,000	¥2,428,000	¥4,608,000	¥5,131,000	¥4,291,000	¥6,801,000	**¥5,076,000**	**¥2,731,000**	
支出	水シンポ	旅費	¥275,500	¥259,600	¥289,440	¥448,656	¥1,001,586	¥435,654	¥314,757	¥0	¥81,509	¥350,429		
		他	¥9,450	¥4,761	¥200,000	¥200,000	¥200,000	¥200,000	¥823,868	¥0	¥500,000	¥533,411		
	親委員会	旅費	¥2,312,871	¥1,550,360	¥2,428,595	¥1,328,050	¥819,340	¥954,045	¥1,670,761	¥0	¥394,378	¥12,780		
	＆編集小	他	¥122,530	¥58,529	¥64,120	¥265,754	¥112,384	¥625,517	¥604,244	¥0	¥2,693,680	¥456,696		
	部会・小	旅費	¥54,325	¥110,450	¥46,656	¥18,360	¥189,842	¥402,396	¥439,237	¥0	¥57,960	¥570,180		
	委員会	他							¥293,184	¥0	¥278,300	¥2,094,316		
	その他		¥0	¥49,280	¥63,982	¥26,303	¥98,788	¥0	¥0	¥139,009	¥281,316	¥100,231		
	合計		¥2,774,676	¥2,032,980	¥3,092,793	¥2,287,123	¥2,421,940	¥2,617,612	¥4,146,051	¥139,009	¥4,287,143	¥4,118,043	¥0	
											2022残高	¥957,957		